

自  
年  
月  
日

至  
年  
月  
日

日独伊同盟条約關係一件

第

一

卷

外務省  
録  
至  
年  
月  
日

自  
年  
月  
日

日独伊同盟条約關係一件

第

一

卷

|   |       |
|---|-------|
| 門 | B     |
| 類 | 1     |
| 項 | 0     |
| 目 | 0     |
| 号 | J/X.3 |

B-0059

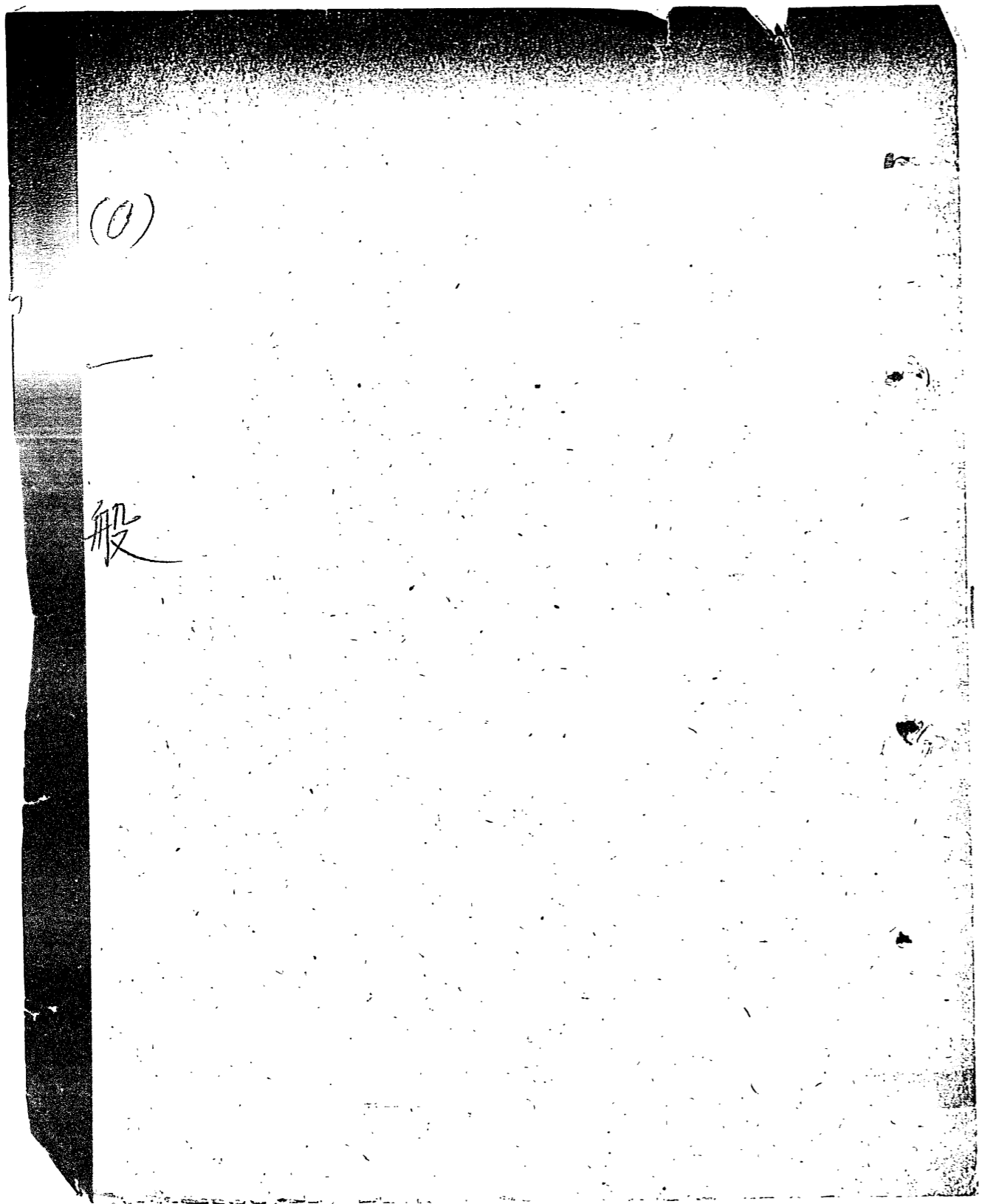
|     |   |   |
|-----|---|---|
| 自昭和 | 年 | 月 |
| 自昭和 | 年 | 月 |
| 自昭和 | 年 | 月 |
| 自昭和 | 年 | 月 |
| 自昭和 | 年 | 月 |
| 自昭和 | 年 | 月 |
| 自昭和 | 年 | 月 |

外務省

|     |                            |                        |
|-----|----------------------------|------------------------|
| 目次  |                            |                        |
| (0) | 一般                         |                        |
| (1) | 各種案文                       | 自昭和 年 月                |
| (2) | 調書「日独伊三国同盟条約締結要録」          | 自昭和 年 月 (外務省顧問青友良衛氏作成) |
| (3) | 調書「日独伊三国条約各種案文作成の国内手續経路概要」 | 自昭和 年 月 (松本条約局長作成)     |
| (4) | 調書「日独伊三国同盟回顧」              | 自昭和 年 月 (青友良衛氏作成)      |
| (5) | 調査、研究関係                    | 自昭和 年 月                |
| (6) | 参考                         | 自昭和 年 月                |
|     |                            | 自昭和 年 月                |

外務省

B-0059



B-0059 |

獨ノ要望及日本ノ許容シ得ル限度

未定稿

原則

- 一、世界新秩序建設ニ對スル協同ノ大原則
- 充分ノ協議ト互ニ他ヲ不利ナラシメルガ如キ協定ヲ他ノ第三國ト結バザルコト
- 二、軍事同盟
- 外交協議
- 武力行使ヲ事變終結後ヲ條件トシ獨ヲシテ働カシム
- 三、歐洲「プロック」ト東亞共榮國トノ有無相通ズル經濟提携ノ原則

(日本標準規格B5)

583

外務省

具体事項

- 一、支那ニ於テ獨ニ與ヘ得ベキモノ
- (イ) 上海共同租界ニ於ケル英米等ト平等ナル發言權及他國ガ享有スル限り獨逸人ニモ治外法權ヲ認メルコト
- (ロ) 表面的ニハ他ノ第三國ニ與ヘ得ベキ最大限度トシ、秘密諒解事項ヲ以テ日本ニ次ギ他ノ第三國ニ優先的ナル考慮ヲ加フベキコトヲ約ス
- (ハ) 獨逸ノ要求スベキ特種資源ニ付一定量ヲ獨逸ノ爲ニ與フルコトヲ約ス
- 註、獨逸ノ投資、現物出資、「クレディット」設定等ノ目的ヲ日獨間ニ圓滿且効果的ニ達成スル爲日獨合辦ノ投資會社「セム

(日本標準規格B5)

584

外務省

B-0059



オフィシャル」ヲ設立スルコトヲ考慮セラレ得ルニ非ズヤ  
 三、軍事同盟ニ關シテハ日本トシテ<sup>後者の形式で行は</sup>轉變處理後少クモ日支停戰成立  
 後トシ、獨逸ヲシテ之ヲ成立セシムル爲努力セシム  
 三、日蘇調整ニ付テモ日獨ノ話合進行ニ伴ヒ之ヲ促進ス、不可侵條約  
 ヲ主軸トスルモ同時ニ中共ニ關スル「チタント」(寧夏、甘肅ノ  
 地盤ヲ認ム)及蘇聯ノ南方發展ニ對スル範圍限定ム(「アフガン  
 「ペルシヤ」要スレバ印度ノ一部)  
 四、將來ニ對スル對米政策ヲ同一歩調ニ置クモノトス、差當リ米ヲ刺  
 戟セザル方針ニ於テ應酬宣傳スルコトモ考慮シ得ベシ  
 五、伊太利ノ加入ニ關スル諒解  
 六、佛印、蘭印ニ對スル日本ノ政治的支配確立ニ關スル自主的方針ヲ

(日本標準規格B5)

外務省

確認セシメ、獨逸ノ經濟活動ニ付テハ他ノ第三國ニ優先セル地位  
 ヲ認ム、特定資源ニ關シ一定量ハ獨逸ニ供與スルコトヲ約ス

日本は独逸の経済活動に付ては他第三國に優先する地位を認め、特定資源に關し一定量ハ獨逸ニ供與スルコトヲ約ス

(日本標準規格B5)

昭和十四年五月廿二日伯林發

大 島 大 使

有 田 外 務 大 臣

郵送第一號（絶對極秘）

日獨伊三國協定問題ニ關スル交渉ハ貴電第二九七號御訓令ニヨリ  
 行詰リ本件トシテ最早策ヲ施スヘキモノヲ知ラス往電第四七七號  
 ノ通り最後ノ所信ヲ上申セル以上何等重見ヲ申スヘキ筋ニ非サル  
 モ本件交渉ニ關シテハ當初ヨリ種々特殊ノ條件アリ之ニ關シ出先  
 トシテノ進取及其他ノ懸想等ヲ尊重ニ圖陳シ置クコトハ將來ノ交  
 渉ノ爲必要ニシテ又參考トナルヘキ點アリト信スルヲ以テ左ノ通  
 申進ス

一 各年十月大停ヲ得命以來本使ハ武官在職中陸軍側ノ重價ニ從ヒ  
 非公式ニ「リ」外相ト聯絡シ居タル三國協定案ニ對スル八月一

外 務 省

十六日五相會議ノ決議ヲ遵定ニ從ヒ引續キ「リ」外相ト交渉シ  
 タル結果十月三十一日ニ至リ獨逸側ノ非公式提案（「ミニオン  
 ン」會議ノ際伊太利側ニモ提示セラレタルモノ）ヲ入手セリ右  
 條約案文及圖案成立ノ進捗ニ付テハ當時直ニ詳細外務大臣宛報  
 告セリ

一 五相會議ノ決定ノ趣旨ハ明白ニ一般ニ第三國ニ對抗スル協定  
 助條約ニシテ本件トシテハ武官在職中陸軍側ヨリノ通知ニ依リ  
 更ニ之ヲ強メ得タルノミナラス大使就任後モ守備外務大臣發東  
 郷大使宛電報第三一一號及第三二七號等ニ依リ帝國政府ノ本件  
 協定締結ノ趣旨カ露聯ノミナラス英佛等ヲモ對象トシ唯前文ニ  
 於テ多少之ヲ「カムフラージュ」セントスルモノナルコトヲ承  
 知シ確信スルニ至リ次第ナリ而シテ政府ハ右趣旨ニ於ケル本件ノ交  
 渉ニ對シ何等反對ノ懸念無ク訓令モ無ク十一月十二日ニハ本協  
 定カ「露聯關係ヲ主トシ對英米關係ヲ從トスルト同時ニ露聯關係

外 務 省

B-0059

上ノ効果ヲ望ム所ニ一石三鳥的外交工策ナルコトヲ電報アルト共ニ伊太利カ本件協定ニ付遲延的態度ヲ示シツツアル真意ヲ探知方御訓令アリタリ（貴電第四四四號）而シテ他方獨逸側ニ於テモ本使ニ於テ「ムツソリ」ニ首相ト會談シ日本政府ノ本件協定ニ對スル誠意ヲ説明シ伊太利側ノ決心ヲ促進スルコトヲ頻リニ從進シ本使ハ右ニモ一理アリト認メタルヲ以テ御訓令タルニ御許可ノ電報ニ接シタリ

然ルニ十一月二十四日ニ至リ突如トシテ政府ヨリ十一月十一日ノ五相會議ニ於テ三國協定締結ノ促進方ヲ議決セラレタルト共ニ「本協定ハ蘇聯ニ對スルヲ主トシ英佛等ハ蘇聯側ニ參加スル場合ニ於テ對象トナルモノニシテ英佛等ノミエテ對象トナルモノニアラス勿論佛赤色化シタル場合ノ如キハ對象タルヘシ」トノ諒解成立セラレタル旨ノ電報（第四六四號）ニ接シタルヲ以テ本使ヨリ右諒解カ八月二十六日ノ五相會議ノ決議ト相違シ

外務省

レル旨ヲ指摘シ且本使トシテハ八月二十六日ノ決議ノ趣旨ニ依リ編造側ニ我政府ノ意志ヲ通告済ニシテ右ハ伊太利側ニモ傳達サレ居ル旨ヲ述ヘ至急明確ナル御訓令ヲ請ヒタルモ（往電第七五九號）爾來政府ヨリ查トシテ何等ノ御回電無カリシ次第ナリ他方本使「ムツソリ」ニ「ト」ノ會見ノ結果「ム」ハ大イニ乘氣ヲ示シ原則的同意ヲ表明スルト共ニ協定發表ノ時期ニ付テモ二初メ迄ニ確答ヲ為スヘシトノ積極的國答ヲ得タルカ帝國政府ヨリハ本使ヨリノ督促ニ拘ハラヌ右諸國ニ對シ何等ノ御回答ナク十二月末ニ至リ漸ク「根本ノ方針ニ付テモ行達アル様ニテ目下折角協議中ナルニ付」外相ト之以上論議入りセサル様トノ訓電ニ接シ當方ヨリ折返シ根本方針ニ關スル行達トハ如何ナル點ナリヤトノ至急諒訓ニ對シテハ一週間ヲ經タル後漸クニシテ「協定適用範圍ノ問題ナリ」トノ御回答ニ接シタリ

本年初頭伊太利側ヨリ協定即時締結ニ同意ヲ表明其後直ニ獨逸

外務省

ノ正式提案伊太利ノ右案受諾トナリ獨伊側トシテハ帝國政府ノ  
 希望ヲ多分ニ收奪レタルコトニモアリ(是ニ前文ニ於テ)直ニ  
 御受諾アルモノト決定シタル模様ナリシニ前記「行達」ノ點ニ  
 關スル政府ノ御審議ハ其ノ後通々トシテ進マヌ當方ニハ其ノ關  
 ノ事情ニ付何等ノ御通報モ無ク獨伊側ノ備足ニ對シテ確ント斷言  
 不可能ノ状態ニ在リタル處突如トシテ伊廉特使一行ノ御派遣ト  
 ナリ本使トシテハ少クモ政府ノ御決定ハ特使到着前ニ豫メ之  
 ヲ承知研究致度ナ旨ヲ上申セルモ御同意ヲ得サリシ次第ナリ  
 特使派遣ノ御事情ニ付茲ニ論議スルコトハ之ヲ避ケヘキモ特使  
 持參ノ御訓令ハ國內ニ於ケル行達ヲ收據ムルヲ主トシ獨伊側ト  
 ノ從來ヨリノ交渉経緯ニ付充分ニ之ヲ考慮セラレサリシモノト  
 認メサルヲ得ヌ右御訓令ニ對スル本使等意見ハ往電第一七六號  
 ノ通ニシテ茲ニ繰返ヌノ要無キモ其ノ根本ノ要點ハ兵力援助義  
 務ノ點ニ在リ(他ニ協定ニ關スル說明類ニ付テハ書翰政府トシテ

外務省

我々ノミニ好都合ナル處僞ヲ用ヒ且獨伊ニモ之ヲ押付ケントス  
 ル御方針ニ對スル反對モアリタルモ(獨伊力援助ヲ受ケタル  
 場合直ニ獨伊力援助以外ノ場合ニ於テモ帝國トシテ一般  
 的武力援助ノ義務ヲ負フコトカ三國協定成立ノ不可缺ノ要件ト  
 ルコトハ本使カ「リ」外相ニ與ヘタル書翰ヲ別トスルモ先方ト  
 ノ交渉ノ結果先方ノ意見ヲ確メ當初ヨリ其論上申シ来リタル所  
 ニシテ右ハ其後ノ交渉ノ経緯ニ依ルモ正當ナリシコトヲ確信ス  
 六面シテ政府ニ於テハ本使等ノ右上申ヲ容レ貴電第一七六號ヲ以  
 テ「安協案」ヲ提示セラレ兵力援助義務ニ付テハ開電第二ニ於  
 テ二箇ノ案ヲ示サレ本使トシテハ其ノ第一案ヲ以テ交渉ノ基礎  
 ト為スニ足ルト認メ之ニ基キ先方トノ交渉ヲ再開シ帝國ハ第三  
 國ヨリ獨伊力援助セラレタル場合援助ヲ得ル程度ハ別トシ  
 一般ニ武力援助ノ義務ヲ認ムルモノナルコト即一般ニ獨伊側ニ  
 立チ參戰ノ義務ヲ負フモノナルコトヲ獨伊側ニ言明シ説得ニ努

外務省

B-0059

メタル結果「ヒトライ」總統ニ於テモ我方ノ真意ヲ瞭解シ能ハ  
 文ニ關スル我方提案ヲ一字一句モ修正セズ轉々トシタルコト  
 御承知ノ通ナリ

然ルニ其後政府ニ於テハ本使カ「リ」外相ニ對シ參戰云々ヲ重  
 明セルコトニ對シ「政府ノ真意ハ獨伊ヲ蘇聯ヲ含メサル第三國  
 ト戰端ヲ開ク場合ニ於テモ援助ノ精神ニ於テハ變リナキモ如何  
 ナル程度ノ援助ヲ與フルヤハ一ニ當時ノ状況ニ依リ決定セント  
 スルモノナリトノ故ヲ以テ本使カ言明セル「參戰」ナル等句ノ  
 意義ニ付帝國政府ハ參戰トハ協定第二條ノ「支持」及第三條ノ  
 「助力及援助」ヲ為スコトヲ意味シ且第三條ノ「助力及援助」  
 ノ中武力援助ニ關シテハ「現在及近キ將來ニ於テハ有効ニ之ヲ  
 實施スル能ハザル程度ノモノト解釋スルモノナルコトヲ獨伊  
 政府ニ説明シ置クヘシ」武力援助モ無ク直戰布告モ無キ「參戰」  
 トノ不可解ナル訓令（貴電第二一四號）ヲ發セラレ之ニ對シ本

使カ參戰ナル字句ヲ使用セルハ獨伊ニ對スル第三國ノ真意ニ對  
 シ密斷トシテ必ス兵力的援助ヲ為スノ義務ヲ負フ趣旨ニテ話シ  
 タルモノニシテ本使ノ強迫備ヘノ右說明ハ政府訓令ニ相違シ居  
 レリヤ否ヤニ關シ特ニ明確ナル御回訓ヲ仰キ（往電第三四四號）  
 タルニ對シテハ「大體蓋支ヘ無キヤニ考ヘラル」トノ漠然タル  
 御回電（貴電第二三八號）ニ接シタルノミニテ政府トシテ依然  
 前記ノ如キ「參戰」ニ關スル不可解ナル解釋ヲ圖執セラレタリ  
 他方本使等トシテハ「ヒ」總統誕生日其他ノ機會ニ於ケル獨伊  
 側トノ接觸ヨリ斯ル政府ノ御方針ヲ以テシテハ到底交渉ヲ續行  
 スルモ成立ノ見込ナキノミナラス今ニシテ參戰ニ關スル斯ノ如  
 キ特殊ノ説明ヲ為スコトハ帝國政府ノ僥倖ニ關シ同シク交渉ノ  
 決裂ヲ來ストスルモ斯ノ如キ経緯ニテ物分レトナルハ將來ノ為  
 甚タ面白カラストノ意見ヲ上申シ交渉斯クシテ絶望トナリタル  
 上ハ本使等ヲ直ニ御召遣アランコトヲ申請シタル次第ナリ（往

電第三七四號)

右ニ對シ政府ヨリ暫ク御返電ニ接セサリシ處政府ニ於テハ突如トシテ平沼總理ノ御意見ヲ註日獨伊大使ヲ通シ獨伊兩國首相ニ傳達スルノ處置ヲ收ラルルト共ニ本使等ニ對シ之ニ基キ交渉ノ續行ヲ命セラレタル處(貴電第二六二號)右平沼總理ノ御言明ハ字句明白ナラス殊ニ交渉不成立ノ責任ヲ濫メ獨逸側ニ課セントスル趣旨ノ字句アリタル為獨逸側ニ與ヘタル印象頗ル面白カラサリシモノアリタルモ本使トシテハ右平沼首相ノ御意見ハ日本ハ獨伊カ一般ニ第三國ヨリ收據ヲ受ケタル場合獨伊側ニ立テテ之ニ政治上、經濟上ノ援助及武力援助ヲ與フルノ不動ノ決意ヲ有ス唯諸般ノ情勢ニ依リ現在及近キ將來ニ於テハ有効ナル武力援助ヲ與フルコトヲ得サル実情ニ在リ尤モ可能ナル援助ハ常ニ之ヲ與フルモノナリトノ御趣旨ナリシヲ以テ茲ニ交渉ノ前途ニ再ヒ曙光ヲ認メ獨逸側ヨリノ交戰關係ニ入ルノ覺悟ヲ有セ

外務省

ラルルヤノ質問ニ對シ之ヲ肯定シ今日ニ及ヒタル次第ナリ

然ルニ先般貴電第二九七號御訓令ニ依レハ政府ニ於テハ更ニ慎重御審議ノ結果蘇聯ヲ古マサル歐洲戰爭發生ノ場合戰爭状態ニ入ルヤ否ヤハ其ノ當時ノ状況ニ依リ自主的ニ決定セントスルノ方針ヲ決定セラレ本使等ニ對シ帝國ハ獨伊カ蘇聯以外ノ國ト戰爭ノ場合ニ於テ獨伊側ニ立ツコト當然ナルモ無條件ニ武力行使ヲ義務附ケラルルコトハ不可ナリトスルモノナルコトヲ獨伊ニ申入ルヘシトノ御訓令ナル處斯テハ又復事廉ハ伊藤公使履行ノ御訓令ト同様ノ事廉ニ立返リ帝國政府ニ於テ何ノ為ニ貴電第一七六號ノ妥協案ヲ提示セラレタリヤ又何ノ為ニ平沼總理ノ御言明アリタル次第ナリヤ本使トシテ全ク之ヲ理解シ得サル次第ナリ

十以上ノ如キ経緯ヲ回顧シ考察スルニ本件交渉ハ結局我方ノ決意不明確ナル為ニ徒ラニ獨伊ニ希望ヲ擧ガシメテ事態ヲ遷延セ被

外務省

等ノ我方ニ對スル信賴ヲ損メタル結果ヲ生シタリ「リ」外相ニ於テハ本年初メ頃ヨリ日本ハ協定ヲ欲セス又ハ遷延ヲ望ムニ非スヤトノ疑念ヲ抱キ始メタルハ當時屢々電報ノ通リエシテ本使ハ政府ノ御訓電ニ從ヒ之ヲ打消スニ努メ来リタルカ今ヤ彼ノ疑ヒタルカ如キ事態トナリタルコトヲ認メサルヲ得ス即帝制政府ニ於テハ元來兵力援助義務ニ關スル諒解ニ付我方カ之ヲ文書ニ作成シ置カントスルノ御趣旨ハ帝國カ現在及近キ將來ニ於テ有テ効ナル援助ヲ為シ得サルコトニ付獨伊ニ誤解ナカラシムルニ在リ（貴電第二一四號ノ一）トシテ之ニ對シ獨伊カ充分ニ了解セルヲ以テ書翰物トスルニ及ハスト答ヘタルニモ拘ラス帝國政府ニ於テ本使等幾度カノ意見上申ニモ拘ラス本使等ニハ不明ナル理由ニ依リ文書ノ作成ヲ國執セラレ之ト併テ元來政府ニ於テ自由ニ為シ得ル本件協定ニ關スル對外説明ニ付テモ不恩諒ニモ獨伊ヲシテ政府間ノ約束ノ如キ形ノ文書ヲ作成セシムル

外務省

コトヲ國執セラレ交渉ノ進行ニ併ヒ結局獨伊ノ離離セル通リ我方ニ於テハ斯ル書キ物ニ依リ協定ノ規定ヲ變更望出セントスルモノナルコト明白トナリタルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ元來獨伊ハ協定ノ文句等ニハ餘リ重キヲ置カサルモ彼等トテモ法律的觀念無キニハ非ス字句等ニ依リ精神ヲ具體化サントスルノ外交方法ハ今後共成功セサルヘキコトヲ確信ス

十尙本件交渉ノ經過中本使トシテ最モ遺憾ヲ感シタルハ機密漏洩ノ點ニシテ交渉ノ初期ヨリ交渉中ノ案文其ノ他カ「デユールナ」ル、ド、モスクー「」ニユース、クロニタル「其ノ他各方面ノ新聞等ニ掲載セラレタルコト再三ニ止マラス固ヨリ之等ノ漏洩カ確テ我方ノ責任ナリト謂フ次第ニハ非ルモ相當我方ヨリ滯洩セル形跡顯著ナルモノアリ又最近ニ至リテハ帝國政府ノ審議進行ノ模様ハ本使等ハ常ニ「アパス」其ノ他ノ通信及新聞電報ニ依リテノミ承知スルカ如キ次第ニテ之等ノ通信ハ屢々相當ニ真

外務省

相ヲ穿テ居リ東京ニ於ケル機密ノ漏洩甚クダシキヲ想ヘシメタリ  
 右ノ結果ハ単ニ本館等ノ交渉上ノ取引ヲ當ニ顧ル困難ナラシメ  
 タルノミナラス本交渉ヲ店晒シトシ帝國ヲシテ所屬引込メノ附  
 カサル立場ニ置カシメタルハ今後ノ交渉ニ當リテハ最モ戒心ス  
 ヘキ點ノ一ナリ

伊  
 へ  
 轉  
 送  
 ス

外  
 務  
 省

B-0059





出席者

日独伊提携強化ニ関スル陸海海外協議  
議事録(昭十五.七.十二)

陸軍省 高山 中佐

海軍省 柴 中佐

軍令部 大野 大佐

外務省 安東 課長

石澤 課長

徳永 事務官

B-0059 |

安東「先般佐藤大使ニ訓令ニ日独提携強化ニ付独逸側ト話ラセシメラル  
ルコトナクカ、佐藤大使ハ「以外相ト合見シ日独双方ノ大体ノ意見ヲ  
交換スルコトヲ得」

其ノ合談ノ際「以外相ハ「日本ハ一体何ヲ欲シテキルカ分ラズト語ツテ其  
カ此ノ機会ニ日本側ヨリ曩ノ佐藤大使宛訓令ヨリ「一歩進ミテ具  
体的ノ案ヲ提去シテ日独提携強化ヲ計ルニ中要ト認ムル。今此皆  
標ニ差上ケテ案ハ全クノ試案ニ過ギナク之ヲ「應審議シテ皆皆標  
ノ御意見ヲ伺ヒタイ」

(高の中佐ノ要求ニヨリ案ハ説明ヲスルニトナル)

安東「本案ハ独逸カ何レモ英國ヲ屈服セシメ歐洲及ア弗利カニ於  
ケル覇権ヲ掌握シ歐洲阿弗利カニ新秩序ヲ建設スルコトヲ前提  
トシテ日独提携ヲ強化セントラ目的トスルモノナリ日本ニトリ「重要同  
題タル阿蘇問題ニ付テハ独逸ト結ニテ阿蘇ヲ牽制セントシ「最近未

世懸ノ提携ノ傾向ナキニシモ非カレトカ同ハルカ日独提携ヲ以テ之ヲ牽制セントスルモノトアル。

日独提携ノ限界ヲ付テハ案ノ中ニアル如ク現在ノ日本ノ國內情勢特ニ經濟狀態ニ鑑ミ又世懸及ヒ米トノ關係ヨリ見テモ冬戰ヲ避ケルヲ賢明トスル(此ノ英ニツキ陸海軍トシテノ意見ヲ求メタル處陸海トモ全意同意ノ旨意思表シタリ)而シテ冬戰ニ至ラザル限度ニ於テノ最大限ノ提携ヲ計ラントスルモノトアル

高山「本案ハ單ニ三者ノ間ノ意見ヲミナラズ之ヲ上ニ提出シ審議シテモラウタメノ案ナルヤ」

安東「本件ハ急遽ニ運カ事ヲ最モ緊急トスルヨリ三者ニ意見ヲトモラハ之ヲ上ニ提出シ直チニ國策トシテ之ヲ実行ニ移ストニシタイ」(陸海共賛成)

(内容ノ説明ニ移ル)

|   |              |
|---|--------------|
| 電 | 昭和 年 月 日 時 分 |
| 信 | 昭和 年 月 日 時 分 |
| 寓 | 昭和 年 月 日 時 分 |
| 番 | 昭和 年 月 日 時 分 |
| 號 | 昭和 年 月 日 時 分 |
| 符 | 昭和 年 月 日 時 分 |
| 主 | 昭和 年 月 日 時 分 |

安東「佛印、蘭印及其他南洋ニ付テノ日本ノ獨逸ニ對スル要  
求」  
 求テ先般來之ノ問題ニ付テ日本ノ「フリー・ハンド」ヲ認メ  
 ト云フ案加テ「フリー・ハンド」ト云フモ曖昧ナルヨリ之ヲ具體  
 的ニ述ベテ「ミルト案」如ク思フ之ノ莫ニ就テハ尙比目標ノ意見  
 ヲ伺ヒタイ  
 案ノ目的ハ日本ハ之等ノ地域ニ付テ領土の歸心ヲ有スルケニ非  
 必之等ノ地方ニ於テ經濟的活動ハ勿論政治的指導權ヲ確立セ  
 ントスルヲ目的トシ之ヲ獨逸ニ認メサセントスルモノ又獨逸ニ於テ之  
 ヲ認メ易キ形式ヲ執ラントスルモノナラズ  
 高山「南洋ニ於テ日本ノ政治的指導權ヲ獨逸ニ認メサセルト云フカ  
 支那滿洲ニ於テ日本ノ政治的指導權ノ關係如何」  
 安東「支那及滿洲ニ於テ日本ノ政治指導權ハ当然ノ事トシテ特ニ列

「記」

安東「高之等ノ地方ニ付テ英、佛及蘭領ノ各々ニ付テ細目ハ後ニ議ルニ  
トスル」  
 安東「支那事變處理ノ為ニ獨力適當ナル支持ヲ与フノ莫ニ付テハ日本ハ  
自主的ニテ「レバ」ラ又例ハ最近問題ニテカケル蔣政權トノ和平仲  
介ノ如キモ、日独提携ノ一般の問題ノ一環トシテ獨逸トシテ支那事變  
ヲ解決シテ日本ノ立場ヲ強化スルニトハ即チ獨逸ニ有利ナリトスル見解ヨリ  
之ヲ行ハシメテ「レバ」ラ又我ニカヨリ懇願スルカ如キ態度ハ避クベキナラズ  
又新政權ノ承認將側ニ對スル輸去禁止等具體的ニ研究スルニ由  
加アル」  
 安東「歐洲及阿非利加トノ通商其他ノ經濟的考慮ヲ加フノ莫ハ獨逸  
加歐洲阿非利加ニ「レバ」ラ經濟ヲ形成セル場合南洋經濟ヲトルト  
アラハ日本トシテ困ミカラ日本ノ東亞南洋經濟圈ト獨逸ノ新經濟圈

電 信 局  
 號番總  
 昭和 年 月 日 時 分  
 主 番

トノ向ニ通商其他ノ經濟關係ノ有無相違關係ヲ確保セントスルモノナル

安東「日本ノ獨逸ニ對シ約スルモノノ中ノ最モ問題トナルハ才ニ英國ノ屈服ヲ容易ナラシムル爲東亞ニ於テ去來得ル限リノ牽制手段ヲ執ルノ果テアルカ之ノ兵ニ付テハ陸海軍ニ果シテ如何ナル手段カアルカ研究ヲ願ヒタイ自分トシテハ英國カ極東ニ於テ有ル政治的權益ヲ壓迫スルトガ或ハ情勢ノ變化ニ應ジ「ヒルマ」印度ニ於テハ獨立運動ヲ極ニ援助スル等ノコトカ牽制手段トナリハセ又カト考ヘル」

安東「才三ノ兵ハ獨逸カ日本ノ南洋ニ於テハ優越權ヲ認メシメタル代償トシテ考ヘルモノトナシ支那・南洋ニハ獨逸カ執望スル高物例ハ「バル」アル「ラム」ガ錫等ヲアリ之等ヲ獨ニ供給セラヤルトシ又獨逸ノ支那及南洋ニ於テハ經濟活動（投資企業ヲ含ム）ニ好意的考

量ヲ加ヘタル之ノ向及「ワ」ハ「ラ」ニカ長クトシトナルト思フ」

大野「獨逸ハ戰後場合ニヨリテハ獨逸佛印及支那ニ對シテ經濟的活動ヲ活況ニ行フコトアルベク殊ニ佛國及和蘭ヲ自己ノ屬國ノ如クセル後佛印獨印ヲ自己ノ領土トセザル迄モ活動的ナラシムル意圖ヲ派遣シテ之ヲ自己ノ政治的指導ノ下ニ置クキヤコトモ考ヘルニ付日本ノ對佛印・和蘭印工作ハ之ヲ豫防スルヲ急遽ナルヲ要スル日本トシテハ佛印・和蘭印自身ヲ歐洲ヨリ切離スルニ努力スルヲ要スル」

安東「(一)ノ對蘇關係ニ付テアルカ現在ノ所下ハ日獨双方トモ蘇聯ト平和ヲ維持スルコトヲ有利トスルニ於テハ同意アルカ戰事終了後ニ於テ獨逸カ對蘇關係ヲ如何ナル方面ニ向ケルヤ今ノ所斷定ハ去來ナイ併シテ下ヲ日獨双方共對蘇關係ニ於テハ同意立場ニ立ツカラ今カ獨逸トノ向ニ何等カノ取極ヲナスコトモ必要アル併シ目下ノ所獨逸ニ對シテ蘇聯係ハ機微ナシト云カアリ日本ニ對シ本當ノ腹ヲ割ラヌコトモアリ得

B-0059

電 信 局 昭和 年 月 日 時 分 主 管

ル依ツテ場合ニヨリテハ後殺ヲドボツルモ可下アル

高山「蘇聯ハ羅馬尼亞ニ進出スルコトハ独逸トシテハ好マサルト云ハルベク之ヲ牽制スルヲ独逸ヨリ依頼ガアツタ場合ニ果シテ如何ニテ殺カ

考ヘラレカ

右ノ手段ニ付色々ノ話アリ

次ハ同ノ對米關係ニ移ル

高山「之ハ結局日本ハ米國トノ間ニ何等ノ諒解等ヲ行ハストノ意ナリヤ

例ヘバ日米間ニ太平洋平和保障ノ協定ノ如キモノ加成五ノ米國ニシテ

太平洋方面ニ影響ヲ感ハルニ至ラバ米國トシテ改洲問題ニ干涉

スルニ至ルコトアルベク之ハ独逸ノ好マサル所ナレバ

安東「然ラバ日米間ニ太平洋保障協定ノ如キモノ加成五ルトシテモ

ソレハ米國ハ米大陸ニ立寄ルベク意味ニ於テ行ハルモトハ南洋等

二年去シテセサル様スルモノアルベキナレ

最近「ヒツトラ」ハ米ハ米大陸ニ止マラシム他大陸ニ干涉スベカラト云ヒ又佐

藤大使トノ會談ニ於テ「ソレハ外相ハ米ヲ牽制スルタメニ日米關係ハ惡

化スルコトヲ望ムニ非ズ見受ケラレバ獨逸トシテハ米ハ獨逸ニ對シ攻撃ノ

態度ニ去テハ限リ現在ニ特来モ米ト平和關係ヲ維持セシムコトヲ希望

スル如ク見受ケラレバ從テ獨逸ハ日米關係ガ特ニ惡化スルヲ好ムモノニ非ズ

ト思ハル

高山「米ハ英側ニ参戰スルコトヲ防グタメニ日本ハ何等カノ措置ヲトルコト

ヲ要求セサルヤ

安東「右ノ如キ心配ハ今回ノ戰爭ノ当初ニハアリタルモ現在ノ所殆ドナシ

何トナシハ獨逸ハ米ノ参戰ナキモノト見テ居ルカラナレ

石澤「對米問題ニ付日本トシテ考ヘテ置カテハナラズ矣ハ今後ニ三年

立テハ米海軍ハ一大飛躍スルコトナレ之ニ對シ自独相共ニ牽制スルコ

B-0059

ト中要下アル

安東「日独トモ米國ト唯ニ合ハズ平和的ニ牽制スルコト中要下アル」

石澤「現在ノ日米双方ノ主張ヲ見ルニ兩者間ニハ相当ノ南中アリ之ヲコト

ナルニ非テ常ニ努力ヲ要スル、一方歐洲ニ於テ秩序建設セラレタル曉ニハ

米ノ歐洲干渉ハ困難トナリ一方米ハ比島「ハワイ」等ヲ根據地トシテ

極東ニ干渉スルコトナレバ日本平和体制ヲ作ルニシテモ米ハ日本ニ

対シテ相当ノ條件ヲ提出スルカヨリ從テ獨ラシテ米ヲ牽制セシナン

トスレバ日本ハ独逸ニ対シテ大ナル倍方トナラズ」

安東「然レ米カ日本ニ圧力ヲ加ヘル事ニシレバ日本ノ對蘇牽制力ハ減ズ

ルコトニナルカラ之ハ独ノ欲セサル所ナルベク日独ノ對米々關係ハ結局同

ジモノトナラズ」

高山「独逸ハ戰前ヨリ相当ノ南米ニ進出セル如ク見ユルカ戰後ニ於テモ

独ハ南米進出ヲ絶對ニ中要トスルモノニ非カヤ、果シテ然ル時ニ米カ之ヲ

許容セズ、独米間ニ多起ルコトナキヤ」

右ノ其ニ付議論アリ

柴「最近報章シテ「ヘルフリヒ」ノ言ニ依ルニ日本ハ戰後独逸ハ疲弊ス

ベク考ヘ居ル向キナサカラホルモ、之ハ全ク誤ニシテ、戰前及戰中

振大セル工業力ハ戰後其ノ敗路ヲ求タルメ経済的大活動ヲナスベシト

云ツテ戰後独逸ハ南洋支那等ヲ祖ワテ経済的ニ大ニ進出シテ米

九カヨリ」

安東「才(四)ノ其ニ付テハ既ニ皆梯ノ意見カマツテ其梯ニ參戰ノ要求

アリトモ之ハ應諾出来ナイ」

安東「三ノ伊太利ノ問題ニシテカ伊太利ハ之迄明白ニ日本ノ東亞政策ヲ

支援スル旨述ベテ其レコトモアリ又戰勝ニ誇ル独逸ヲ牽制スル意味

ニ於テモ日本トシテ伊太利ト友好的關係ヲ保持シ行クハ重要トアルカラ

本件ヲ独逸ニ持去スト同好ニ伊太利トモ交渉スルコトヲ適當ト認ナル



(陸海共贊賞)

「伊太利トノ間ニ問題ニナルハ、蘇聯關係示ルカ、伊太利ハ蘇聯ト間ニ平和ヲ維持スルニモ、皆完成ナリヤ、コノ英ガ問題ニナル」

高山「現戦争進行中ハ、独伊ノ対蘇態度ハ、強弱ノ差コリケレ、平和ヲ維持シテ、英ニ於テハ一致スルカモウ」

高條約ノ形式ニ付議論アリ、正式ノ條約トスルハ、時間ヲ要ス、先方カ條約ヲ希望スレバ、免レ角然ラカ、限リ政府間ノ交換公文位ニシテ政治的ノ了解ヲ遂ケルコトス、尤モ日本ノ蘭印、佛印ニ對スル地位ノ承認ハ、協定ニシテ、可ナリ、要スルニ急進ニ事ヲ運ブ、事ト一致ス

高夫々各項ノ具体的問題ノ綱目ヲ至急慎重ニ研究スルコトニ一致シ

相通

昭和十五年七月二十日迄案

日独伊提携強化案

一 提携強化ノ目的

現下ノ國際変局ニ處シ、南洋ヲ含ム東亞新秩序建設ニ邁進スル帝國ト、歐洲ニ於テ新秩序建設ニ戦ヒツク、独伊トノ間ニ連カニ緊密ナル協力關係ヲ具現シ、帝國ノ目的達成ヲ容易セントシ、其ニ歐洲戦後ノ世界情勢ニ對處シテ、帝國ノ國際的立場ヲ強固ニセシトス

二 日独提携

方針

日独兩國相互ニ密接ナル聯絡ヲ保持シ、且ツ外交上及經濟上ノ支援ヲ与フルコトニ付、且ツ体的ナル政治的ノ了解ヲ遂ケルモトス

要領



電 信 寫  
 號 番 總  
 昭 和 年 月 日 時 分  
 主 管 分 局

(一) 獨逸ハ日本ニ對シ左記ヲ約ス  
 一 佛印蘭印其他南洋地方諸民族ノ自治又ハ獨立ニ干渉セス  
 右地方カ日本生存圏内ニテ認メ右地方ニ對スル日本ノ政治的  
 指導及協力ヲ承認シ之ヲ支持ス  
 一 支那事變處理ノ為ニ適當ナル支持ヲ與フ  
 一 歐洲及「アフリカ」ト通商其他ノ經濟關係ニ關シ好意的考慮  
 ヲ加フ  
 (二) 日本ハ獨逸ニ對シ左記ヲ約ス  
 一 獨逸ノ歐洲及「アフリカ」ニ於ケル政策ヲ支持シ獨逸指導下ノ歐  
 洲新秩序ヲ承認ス  
 一 英國ノ屈服ヲ容易ナラセラルル為東亞ニ於テ出來得ル限りノ牽制ヲ  
 緩ク執ル

一 獨逸ノ必要トスル支那及南洋ニ於ケル物資供給並ニ支那及  
 南洋ニ於ケル獨逸ノ經濟活動ニ好意的考慮ヲ加フ  
 (三) 日獨兩國ハ「ソ聯」ト和平維持ニ協力スルコトヲ「一方カソ」聯ト戰  
 争狀態ニ入ル場合ニ他方ハ「ソ聯」ヲ援助セザルニテ「右」ノ場合  
 及日獨兩國ノ一方カ「ソ聯」ノ脅威ヲ受ケル場合兩國ハ執ルヘキ措置  
 ニ關シ協議スルコトトス  
 (三) 日獨兩國ハ米國ヲテ米大陸以外ノ他方面ニ容喙セシナキ様協力シ  
 米國カ日獨何レカニ對シ政治的又ハ經濟的壓迫ヲ為ス場合日獨共ニ  
 米國ヲケンセイスルカ如キ政策ヲ行ヒ支持スルカ如キ政策ヲ執ラザル  
 コトトス  
 (四) 獨逸ヨリ我方ノ参戰義務應諾ヲ主張スル場合現段階ニ於テハ之  
 ヲ受諾セス  
 (五) 米樞大使「ソ」外相ト交渉スルヲ可トスルモ右カ不可能ナラハ東京ニテ

B-0059

電信寫  
 號番總  
 號符  
 昭和 年 月 日 時 分  
 昭 和 年 月 日 時 分  
 主 管

之ヲ行フ

三日伊提携

獨トノ交渉ト併行シテ羅馬ニ於テ伊太利トノ交渉ヲ開始ス其ノ内  
 容ハ大体独ニ準シテ伊太利ノ歐洲及「了」由ニ於テハ政策ヲ支持  
 シ地中海ヲ中心トスル新秩序ヲ容認スルト共ニ他ハ獨ニ對スルモノト同  
 シ

日独伊提携強化案

一 提携強化ノ目的

現下ノ國際變局ニ處シ南洋ヲ含ム東亞新秩序建設ニ邁進スル帝  
 國下歐洲ニ於テ新秩序建設ニ戰ヒツルニ獨伊トノ間ニ連カニ緊密ナ  
 ル協力關係ヲ具現シ帝國ノ目的達成ヲ容易スルト共ニ歐洲戦后  
 ノ世界情勢ニ對處シテ帝國ノ國際的立場ヲ強固ニセントス

二 日独提携

方針

世界新秩序建設ノ共通目標トシテ日独兩國相互ニ密接ナル聯絡  
 ヲ保持シツツ日本ハ南洋ヲ含ム東亞ニ於テ又獨逸ハ歐洲及阿華利  
 加ニ於テ併行シテ新秩序建設ニ専ルコトシテ若シ必要ナル外交上及  
 經濟上ノ協力ニ付具體的ニ政治的瞭解ヲ遂クモトス

要領

B-0059

一、(1) 独逸ハ日本ニ対シ左記ヲ約ス

一、佛印葡印其他南洋地方カ政治的経済的ニ日本ノ生存圏内ニアルコトヲ將來ニ等地方カ自治又ハ独立ノ自由ヲ有スルコトヲ承認シ進テ之カ政治的現状ノ変更ニ日本承認ヲ必要トスルコトヲ認テ右地方ニ對シ日本ノ政治的勢力ノ扶殖ヲ妨害セス且經濟的發展ヲ支持ス

一、独ノ執力下ニ在ル歐洲及「アフリカ」ト通商ノ無差別待遇ヲ保證シ其他ノ經濟關係ニ對シ好意的考量ヲ加フ

一、日独間ニ經濟技術提携ヲ為ス

一、日本ハ独ニ對シ左記ヲ約ス

一、歐洲及「アフリカ」ニ對シ独逸ノ政策ヲ支持シ独逸指道手下一歐洲新秩序ヲ承認ス

一、支那及南洋ニ對シ独逸ノ重要トスル物資供給ヲ保證ス

一、支那及南洋ニ對シ通商ノ無差別待遇ヲ認テ独逸ノ經濟

活動ニ好意的考量ヲ加フ

(二) 日独兩國ハ「ソ連」ノ平和維持ニ協力スルコト一其ノ一方カ「ソ連」ト戰爭状態ニ入ル場合ニハ他方「ソ連」ヲ援助セサルニテ「ソ連」ノ右ノ場合及日独兩國ノ一方カ「ソ連」ノ脅威ヲ受ケル場合兩國ハ孰ルハキ措置ニ對シ協議スルコトトス

(三) 日独兩國ハ米國ヲシテ米大陸以外ノ他方面ニ容喙セシムル種協力ニ米國カ日独何レカニ對シ政治的又ハ經濟的壓迫ヲ為ス場合日独共ニ米國ヲ支持スルカ如キ政策ヲ執ラザルコトトス尙日独兩國ハ中南米ニ對シテ米國政策ニ付提携ス

(四) 英ニ對シ殖民地帝國分割ニ依ル執力瓦解ヲ計ルコト  
英國ノ屈服ヲ容易ナラシムル為東亞ニ對テ去來得ル限りノ牽制ヲ  
殺(英軍ノ撤退 香港ノ武装解除要求 南洋英領ノ割讓要求)

(外嘉坡)

英船の手押

求(非葡)印及ビルマ等ノ獨立ヲ執ルニカ爲独ハ支那事変

處理ノ爲政治的ニ適當ナル支持ヲ与フ  
(2) 独側ヨリ我ニ方ノ参戰義務應諾ヲ主張スル場合現段階ニ於テハ  
之ヲ受諾セズ

(6) 末栖大使「ソノ外相ト交渉スルヲ可トスルモ右カ不可能ナラズ東京ニテ之  
ヲ行フ

三日伊ノ提携

独トノ交渉ト併行シテ羅馬ニ於テ伊太利トノ交渉ヲ開始ス其ノ内容  
ハ大体独ニ準シテ伊太利ノ歐洲及「アフリカ」ニ於ケル政策ヲ支持シ地中  
海ヲ中心トスル新秩序ヲ容認スルト共ニ他ハ独ニ對スルモノト同一

1508

日独伊提携強化案 昭和十五年七月十二日起案

一 提携強化ノ目的

現下ノ國際變向ニ處シ南洋ヲ含ム東亞新秩序建設ニ邁進スル帝  
國ト歐洲ニ於テ新秩序建設ニ戰ヒツラル 独伊トノ間ニ連カニ緊密  
ナル協力關係ヲ具現シ帝國ノ目的達成ヲ容易ニスルト共ニ歐洲戰  
後ノ世界情勢カニ對處シテ帝國ノ國際的立場ヲ強固ニセントス

二 日独提携

方針

世界新秩序建設ノ共通目標ノ下ニ日独兩國相互ニ密接ナル聯絡  
ヲ保持シソソ日本ハ南洋ヲ含ム東亞ニ於テ又 独逸ハ歐洲及阿弗  
利加ニ於テ併行シテ新秩序建設ニ當ルニトシ右ニ中亞亞外外交上  
及經濟上協力ニ付具體的ニ政治的ニ了解ヲ遂クンモノトス

要領

B-0059

|     |    |   |
|-----|----|---|
| 電   | 信  | 高 |
| 號番總 |    |   |
| 號符  |    |   |
| 昭和  | 昭和 |   |
| 年   | 年  |   |
| 月   | 月  |   |
| 日   | 日  |   |
| 時   | 時  |   |
| 分   | 分  |   |
| 秒   | 秒  |   |
| 主   |    |   |

(一) 独逸ハ日本ニ対シ左記ヲ約ス

一 佛印蘭印其他南洋地方カ日本ノ生存圏内ニアルコト及之カ政治的歸屬ノ變更ニ日本ノ承認ヲ必要トスルコトヲ認メ右地方ニ在ル日本ノ政治的指導力及経済的協力ヲ支持ス

一 支那事變處理ノ為政治的ニ適当ナル支持ヲ与フ

一 歐洲及「アフリカ」ト「通商其他」ノ經濟關係ニ關シ好意的考慮ヲ加フ

(四) 日本ハ独逸ニ對シ左記ヲ約ス

一 歐洲及「アフリカ」ニ在ル独逸ノ政策ヲ支持シ独逸指導者下ノ歐洲新秩序ヲ容認ス

一 英國ノ屈服ヲ容易ナラシムル為東亞ニ於テ出來得ル限りノ牽制手段ヲ執ル

(二) 支那及南洋ニ於テ独逸ノ必要トスル物資ノ供給並ニ支那及南洋ニ在ル独逸ノ經濟活動ニ好意的考慮ヲ加フ

(三) 日独兩國ハ「ソ聯」ト「平和維持」ニ協力スルコトヲ一方カ「ソ聯」ト「戰爭状態」ニ入ル場合ニハ他方ハ「ソ聯」ヲ援助セサルノミナラス左ノ場合及日独兩國ノ一方カ「ソ聯」ノ脅威ヲ受ケル場合兩國ハ執ルべき措置ニ關シ協議スルコトトス

(三) 日独兩國ハ米國ヲシテ米大陸以外他方面ニ容喙セシムル様協力シ米國カ日独何レカニ對シ政治的又ハ經濟的压迫ヲ為ス場合日独共ニ米國ヲ支持スルカ如キ政策ヲ執ラサルコトトス尚日独兩國ハ中南米ニ於ケル施策ニ付提携ス

(四) 独側ヨリ我方ノ参戰義務應諾ヲ主張ス場合現段階ニ於テハ之ヲ受諾ス

(二) 米栖大使「ソ外相ト交渉」云々ヲ可トスルモ右カ不可能ナラハ東京ニテ

1392



合議事録  
昭和十五年七月十六日  
日独伊提携強化ニ関スル陸海外三者係官合議事録(其ノ三)

- 出席者
  - 外務省
    - 安東 謀長
    - 石澤 謀長 (中座)
    - 田尻 謀長
    - 徳永 事務官
  - 陸軍省
    - 高山 中佐
  - 参謀本部
    - 種村 中佐
  - 海軍省
    - 柴 中佐

安東 「先日、合議、際日独伊提携強化ニ関スル案ヲ差トケテ置テ、今日、其ノ案ニ付テ、陸海軍ノ意見ヲ承リ、先ツ陸軍ヨリ」

三、日伊ノ提携  
 独トノ交渉ト併行シテ羅馬ニ於テ伊太利トノ交渉ヲ開始ス其ノ内  
 容ハ大体独ニ準シテ伊太利ノ歐洲及「アラビヤ」ニ於ケル政策ヲ支  
 持シ地中海ヲ中心トスル秩序ヲ容認スルト共ニ他ハ独ニ持スルモノ  
 ト同シ

International Military Tribunal  
 For the Far East  
 EXHIBIT NO. 227  
 Prosecution  
 Offered for Identification 24 SEP 1946  
 Received in Evidence 24 SEP 1946  
 Refected  
 Received Conditionally  
 Clerk of the Court



高山 「案全体ノ考ヘ方トシテハ之デヨク賛成ス一々ノ點ニ付テ述ベルト(一)ノ南洋

ヲ含ム東亞新秩序建設ノ旨ノ南洋ノ意味ヲスルカ日本ノ腹構ヘトシテハ西ハ印度ノ東

部「ビルマカラ南ノ方ハ濠洲新西蘭ヲ含ムトシテ中タイ併シ其中ハ自ラ才一

義ノ南洋ト才ニ義ノ南洋カアルキテ今テスガ日本ノ態度トシテ表明スベキ南洋

トシテハ才ニ義ノ濠洲新西蘭「ビルマ」等ヲ含ムル較イ南洋ヲ意味スベキカ

併シ日本ノ腹構ヘトシテハ広イ意味ノ南洋ヲ考ヘテ置クベキト思フ」

安東 「日本ノ理想トシテハ勿論濠洲新西蘭「ビルマ」等ヲモ包含セシムベキナル

併シ具体的ノ問題ニ於テ且下ノ所才ニ義ノ南洋ヲ採ルベキナル之ノ點ニ於テ

高山申佐ノ意見ニ全然同感ナリ」

柴 「同感」

高山 「次(二)ノ要領點ニ付テアルカ斯ル要領ヲ精選トシ固ニ定在前ニ要領根

本トナルベキモノ即チモト原則的ノモノヲ語ス由要キヤト考ヘル」

安東 「其ノ原則的ノモノト云フハ精選カ歐洲及所併利加ラ其ノ生活圏トシテ之ニ

新秩序ヲ建設シ一方日本カ南洋ヲ含ム東亞新秩序ヲ建設スル點ニ於テ兩國ハ共通ノ

立場ニ在ラ以テ兩國カ互ニ其ノ生活圏ヲ承認尊重シ其中ニ於テハ新秩序建設ニ

助力及協力ヲナスベキコトヲ意味スルヤ」

高山 「然リ」

安東 「高山申佐ノ原則的ノモノニ付テ精選トシ固ニ先ツ語ヲ定ムコトニ異議ナシ」

高山 「即チ精選ト本件ニ付語ヲスルトキハ先ツ才ニ原則的ナルコトヲ語シ之ヲ定ムタ

上ニ要領細目ニ入ルベシ」

安東 「同感」(海軍賛成)

高山 「次ニ要領ノ内容ニ入ルカ一ノ中ニ諸民族ノ自治又ハ獨立ニ干渉セズトノ文

句カアルカ精選ニ之ヲ言ハセル由要ナシト思フ」

安東 「之等地方ヲ精選カ取ル意向キキトテ示サセルタメノモノナリ」

高山 「其レハ明瞭ニ言ハシメル由要ナシト思フ佛印蘭印カ日本ノ生存圏内ニア

ルコトヲ認メシメ其等地方ノ日本ノ政治的指導ヲ認メシムルハ充分ナリト思フ」

B-0059

結局「南洋地方から日本に生存圏内を認め、ハ、ハ、ハ」

高山 「次ニ政治的指導ノ意味ヲアルカ、之ノ意味ノ最も強ク場合ハ占領ヲ意味スルガ、今々分ニハ占領ハ考ヘニ置キテハナキヤ、然レ免モ角政治的指導ノ點ニ於テ

國內ニ於テ腹ヲ合セ一政ニテ置ク必要アル而シテ成ルベク強ク政治的指導權ヲ独逸

ヲシテ承認セシムルコトニシヤク

安東 「本件強化問題ニ於ケル最も困難ナル莫クハ茲ニアルト思フ、佐藤大使ヨリ電

報ヲモ薄々ウカハレルテアルカ、独逸ハ南印佛印ニ付テハ独逸自身カ政治的指

導權ヲ握リ日本ニ経済的ニ利益ヲ与ヘントスル意向ヲ有シテアルハナキカ、即チ

独逸ハ日本ニ政治的指導權ヲ認マシトスルハナキカト言フコトカウカレル

高山 「自分モソナシカスル、独逸ニ於テハ未得ル限り強キ佛印南印ノ指導權

ヲ認メシムルコトカウヤク

安東 「本件強化問題ノ話合ヒニ際シテハ右ノ莫ク問題ニアルト思フ、先日山

路總領事ヨリ電報ヲ見テモ独逸ハ「南印」ノ東ヲ日本ニ提供スル意カアルト云

フテアルカ、之ヲ述ベ言ハハ瓜哇「ス」トシテ等ハ独逸カトルコトヲ意味スルカアル

高山 「独逸カ今後南印佛印南印日本ニ如何ニ態度ヲトルカ、独逸カ戦後ニ懸

ニ於テ如何ニ態度ヲ採ラントスルカニヨリ懸ルト思フ、独逸カ戦後ニヨリ遠カラカ懸

ヲ慮シトスル意向ヲ佛印南印ハ業外容易ニ日本ニ委スルヤモ知レナイ、併シ先

才ニ歐洲ノ新秩序建設ニ取リカカルベク佛印南印問題ハ相当厄介ナレ、而シテ

今ノ所日本トシテハ独逸カ佛印南印ヲモ政治的ニトラントスル意向ノモ念ニ考ヘ之ニ

對處シテハナラヌ、ソレニ相当強ク覺悟ヲ必要トスルカアル

安東 「同感ナル、独カ南印等ニ政治的指導權ヲ持タウトスルコトハ強ク反シスベキ

テアル

石澤 「全然同感ナル

種村 「佛印南印ノ問題ハ結局海軍力カ物ヲ言フと思フ、海軍力ヲ持テテ独逸

カ如何ニ擴張ヲ所テ日本ノ海軍勢力圏内ニ日本ニ抵抗ナキヤ、結局問題

ハ日本ノ腹ニツキ決スル



安東 「其レハ尤モカソウノ場合ニハ独逸ハ其ヲ利用シ日本ヲ此ヨリ牽制セシム  
トスルカモ知レナイ之モ考ヘ置クベキトアル」

種村 「如何ニ其ヲ利用シ南洋ノ一部ヲトラウトシテウカウカキ出  
シテスルコトハニヨイ、其ヲ近東・印支ヲ粗クテロウ」

高山 「何ノ「英國ノ屈服ヲ容易ナラシムルタメ牽制手段ヲトルハ前ノ「支那事  
変處理ノタメ通ナル支持ヲ与フ」と其ノ別ノ項ニテ如何トシバ之ハ日獨固

係ノ將來ヲ律スルト云フヨリも現在ノ問題乃至短カク期間ニ終ルキ事項ナルカラ  
安東 「三ハ一ツハ独逸ヲシテ南洋ヲ合ム東亞ノ新秩序ヲ承認セシム事変

處理ニ支持ヲ与ヘシム代償トシテ考ヘラモトテ、別項トシテ「議アルワカナイ」  
高山 「英國ニ対シテ牽制手段ヲ執ルトアルカ果シテ有効ナル牽制手段アリヤ」

柴 「具體的ニ方針トシテハ仲々物シイ」  
高山 「然ラバ本項ハ文字ヲ換ヘル必要ナキヤ」

田尻 「新聞ノ利用ヲ考ヘラレル」  
高山 「日本ノ對英牽制ト独逸ノ事変處理支持トガ丁度ハラニス」トシテ考ヘラレ

ルガ事変處理ニ付テ考ヘラレル新政權ノ承認ニ付テ、波蘭等ノ承認ヲ「ハラニス  
カトレルガ支那ノ經濟建設ニ協力セシムル英ニ付テ、對英牽制ガ「ハラニス」トシテ

考ヘラレルベキナリカ」  
安東 「經濟建設協力ニ対スル代償トシテ独逸ガ欲レイトシテ年ル「ソウルフラン」其

地ヲ供給シテヤルコト及企業ニ或程度参加セシメテヤルコトヲ考ヘラレル」  
高山 「支那ニ於ケル企業ニハナルベク参加セシムルコトヲ避ケタイト考ヘテ年ル」

種村 「イホトシバ企業ノ半分近ク迄参加セシムル数量ヲ手シテモヨイ」  
高山 「其レハナルベクナラシタイ」

田尻 「事変處理ニ付テ、独逸ノ政治的支拂ト言ハシハ今所和平轉シタ  
ラウ、經濟問題トシテ、經濟及技術ノ提携ヲアルカソノ代償トシテ支那南洋

ニ独逸ノ重工業ノ捌ケ白ラセテヤル」

高山 「独逸ト共ニ伊太利ノムトヲ考ヘル要アリ」  
 田尻 「代償トシテハ事変以來独逸ハ沿岸貿易ヲ行フテ居ルカコソ沿岸貿易トカ支那ニ於ケル産業技術ノ援助ヲ認メラウコト思フ。日本ハ独逸ヨリ経済技術ヲ學ブ中要カアリハシキカト思フ」  
 安東 「其レハ中要ガ。亞米利加ノ重工業ハ材料豊富ナ重工業テ言ハバ金持ノ重工業テアリ独逸ノ重工業ハ貧乏人ノ重工業ナル日本トシテハ独逸ノ貧乏人ノ重工業ヲ學ブ中要カアル」  
 種村 「日本トシテハ滿洲ノ重工業ヲ發展セシムルコトハ非常ニ大切ナル從テ亞米利加ヨリレコトカ期待テキキトスレバ独逸ヨリ之ヲ入レルコトヲ考ヘテハナラヌ。戦後独逸ノ技術カ蘇ニ入ル様ナトニシテ日本トシテ重大問題ナラン戦後独逸ノ技術ヲ滿洲支那ニ入レルコトヲ考ヘテ置置スルナラナラン」  
 安東 「話ハモトニ戻シテ結局ヲ英牽制トシテ何等具体的ノ手段ナシト言フコトニナルカ」

田尻 「新南ヲ利用シテ或程英ヲ英牽制ヲ行ヒ得ル」  
 安東 「國際情勢ノ變化ニ應ジ「ビルマ」印支ノ独立運動ヲ密カニ煽動スルコトモ効果アルヲ英牽制ト考ヘテレル」  
 種村 「支那事變ヲ繞ルヲ英問題ニ付強硬ナル態度ヲトルコト例ハ香港南洋各問題ニ上海天津問題ニ付強硬ナル態度ヲトルコト之カ英牽制ニ非テ常ニ効果アリト考ヘル」  
 田尻 「場合ニヨリテハ香港ノ武装解除ヲ要求スルモ一策ガ」  
 安東 「結局第一支那カラ英國ノ政治権宜ヲ排除スルコトオニ「ビルマ」印支ノ独立ヲ煽動スルコトニシテ」  
 高山 「之等ハ結局武力發動ニ至ラヌ程ガニ行フ」  
 安東 「海軍トシテハ例ハ無国籍艦船ヲ動かス等ノコトハ考ヘテナイカ」  
 柴 「ソレハ考ヘラレル」  
 柴 「英牽制ヨリ先進シテ英國ヲタタク方法ハナイカ」

田尻 「蔣介石がソウウツ時ニ行ヒ得ルか今ノ所ニ行ハナクヨイ」

柴 「其レハ事変處理カ済ニカラテ参戦ニテモヨイト云フコトナリハシナクカ」

高山 「差当リ現在ノ程ニ進ムカ通ダラレ」

柴 「ソノヲ英牽制ノ内題ヲ独逸側ト話ニテナルト新嘉坡ヲトテ吳レト独逸

側カ云ヒカスカモ知レヌ

田尻 「事変カ片付テ行フト云ハヨイ」

種村 「新嘉坡ノ攻撃ハ自主的ニ行フカトスレバヨイ」

高山 「結局参戦ノ内題ニ付テ日本ハ義務ハ負ハナリ、併シ日本独自ノ立場

ニ於テ中英一戦ヲ行フコトアルベシト云フ構ヘテ以下独逸ト交渉スルコトヲラヨイ」

(一同賛成)

高山 「オノ項ノ参戦關係ニ付テ差当リ平和維持ヲナスコト、結局参戦ヲ日独共

通ノ立場ニ副フ如ク利導スルコト、場合ニヨラハ蘇ノ鋒先ヲ「ビルマ」印取ニ向

ケルコトモ考ヘ得ル」

高山 「オノ項ノ参戦關係ニ付テ差当リ平和維持ヲナスコト、結局参戦ヲ日独共

通ノ立場ニ副フ如ク利導スルコト、場合ニヨラハ蘇ノ鋒先ヲ「ビルマ」印取ニ向

ケルコトモ考ヘ得ル」

ト共ニ米ニ対シ共同動作ヲ執ルコトモ今ノ中ニ考ヘテオイタカヨクナクカ」

安東 「米國ノ内題ニ付テハモトモ考ヘル中要カレ、現在独逸ハ米國ニ対シテ

ハ作年ニ樂觀的ナリ、又戦後ノ経営ニ付テモ「シヤハト」ハ米ヨリ金ヲ借

リルコトヲ考ヘ他「ナチス」派ハ「バータ」制ニヨルコトヲ考ヘテナル、結局独逸カ

米ニ対シ如何ナル態度ヲ取ルカ、独逸カ英國ヲ倒シテ後ニナラテニケレバ今ノ

今ノ所ニハ独逸ハ「米國ハ歐洲ノ内題ニ口ヲ出スナレト」シテ年ル日独間ノ話合

テハ今ノ「慶業」ノ程ニ以上何トモ云ヘナク思フ」

高山 「ソレハソウガ、併シ日本ノ腹構ヘトシテ、既ニ述ベタ様ナコトヲ考ヘテ置

ク中要カアルコト意味ニ於テ將來南米ヘノ經濟進出ニ付テハ獨協カスルコ

トヲ考ヘテ置直イテヨイ」

田尻 「独逸ハ吾國ノ経済ヲ全ノ経済トシテ之ヲ見込テ居ル將來ノ南米ハ一經  
 済進出ヲ考メテ居ルと思フ。兎モ角独逸ハ將來南米ヲ付テ如何ニ考メ居ル  
 ヤヲ一應打診シ置クニト申ス。独逸トシテモ吾國ハ蘇ハ其後ニ在ルニトハ  
 大ニ其力ヲ實感ス」

種村 「独逸ト吾國トノ争ハ近ク實現シハシキカト思フ。独逸ハ南米ニ進出シ之  
 ヲ吾國ハ防衛スルニトヨリ争ハルリ可能ナリ。日本ニトシテモ南米ハ良キ販  
 路ナルニヨリ独逸ト協力シテ南米進出ヲ計ルベキカト思フ」

安東 「当局ニ等ノトハ吾國ハ大陸ノミニ止ミトスル政策ニ合スル腹構ヘトシテ  
 ハ高山中佐等ノ言ハルル莫ク指シテ居ル申要ナル如目下紙ニ書クモノトシテハ  
 原案位テヨクナリカ」

高山 「才四項ノ参戰義務ノ向題ハ既ニ話し済ミノ如ク日本トシテハ義務ハ  
 負ハナリカ自主的ニ對英一戰ヲ行フコトアリトノ腹構ヘナルベキト」

高山 「最後ニ伊太利トノ提携ニ付テハ原案ニ賛成」

田尻 「伊太利ト向ニ別ニ商案ヲモノクテソトシカ」

安東 「伊太利モ大体独逸ト同様ニシ同甘ニシタカヨ」

高山 「独逸伊太利ニ付テハ、是迄支那ニ於テ有ル経済的的政治的力ニ於テ  
 差カアルコトヲ認メネハナラヌ」

高山 「蘇聯問題ニ付テハ伊太利ニ對シテハ言ヒテソラシク變ヘル中要ハナリカ」

安東 「之ハ最近ノ大橋忠一氏ノ報告テアルカ伊太利ハ回教徒ヲ利用  
 シテ「イニ」印亞方面ヘノ進出ヲ考慮シテ居ルト云フコトアル。若シ蘇聯が「  
 テ」ニナルコトアラバ伊太利トシテモ蘇聯問題ニ相多ク関心ヲ持ツカヤウ  
 兎モ角程ニ別コトナレバ蘇聯問題ニ付テハ独伊ハ共通ノ立場ニアル從テ  
 独伊ニ對シテ同様ノ提議ヲナシテモヨ」

安東 「次ニ海軍ノ方ノ意見ヲ承リタイ」

柴 「既ニ高山中佐ノ言ハレタ莫ク其レニ賛成テアル。日独提携ヲ強  
 化スルニアタリテハ日独相互ニ甚ク新秩序建設ヲ認メ互ニ協力スルト云フコトヲ

高山 独逸に話合ヲスルコトニシテハ電報示ハ意ヲ盡シ得ルカラコトヲ腹ヲ傳  
 (ル為ニ説明ニ行ク事カハロウ)

(一同賛成)

骨子トスベキ日本側カ物欲シサリテ願フニテハ又、又提携強化ニ際シテハ、  
 秋野野田等ニツキモツト突進ニ示語ヲスル少要アリハセカト考ヘル。日本側ハ本質的  
 ◎ニ対立スベキモノナク、現在ノ日本対立ハ多ク経済的ナリ又多分感情的ナリ  
 又秋野野田等ニ付テハ日独加三ヲ利導スルコトカ少要ナリ。只三等ノ事ヲ條約ノ文面ニ出  
 スコトハ勿論考ヘモノナク

高山 「本、秋野野田等ハ條約ノ表面ニ出サカ、秘密條項トスベキカ」

高山 「コノ原案ヲ實現スルニ如何ナル手續カトナレルカ」

安東 「日独双方ノ話合ニ要兵ヲ交換スルコトニテモナルカロウ」

安東 「是レ下係官向テハ大体意見カ纏ツテ、實施ノ為好ヲ失ハナクコトカ肝要ナ  
 ト思フ」

(一同賛成)

高山 今迄ノ話合ヲ陸軍ハ纏メ得ラレト思フ。

柴 海軍モ同様ナリ

|   |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |   |
|---|--|--|---|--|--|--|--|--|--|--|---|
| International Military Tribunal<br>For the Far East |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |   |
| EXHIBIT NO. 328                                     |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |   |
| Pros. <input checked="" type="checkbox"/>           |  |  | Defense <input checked="" type="checkbox"/> |  |  |  |  |  |  |  |   |
| Offered for Identification 24 SEP 1946              |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |   |
| Received in Evidence 24 SEP 1946                    |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |   |
| Rejected  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |   |
| Received Conditionally                              |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |   |
|   |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  | <i>Charles G. Smith</i><br>Clerk of the Court |

B-0059 |

訂正案  
秘

日獨伊提携強化ニ關スル件 昭和二五・七・三〇

一、方針

帝國ト獨伊トハ世界新秩序建設ニ對シ共通の立場ニ在ルコトヲ確認シ相互ニ其ノ生存圈ノ確立及經倫ニ對スル支持及對蘇對米政策ニ關スル協力ニ付キ了解ヲ遂ク

二、要領

(一)帝國ト獨伊間ニ於テ右方針ニ基ク基本的了解ヲ遂ク(別紙第一)註、右基本的了解ニ基キ更ニ日獨伊間又ハ日獨、日伊間ニ所要ノ協定ヲ行フモノトス

(二)現在日獨伊各通カ夫々直面シ居ル支那事變及歐洲戰爭ニ關スル相互支持協力ニ關シ右基本的了解ト共ニ速カニ了解ヲ遂ク(別紙第二)

(日本標準規格B5)

外務省

(三)右實施ハ左ノ各項ニ依ル

イ、前記(一)及(二)ノ交渉ハ別紙第三日獨伊提携強化ニ對處スル基礎要件ヲ体シ且別紙第四交渉方針要領ニ基キ行フ

ロ、前記(一)ハ伯林及羅馬ニ於テ實施ス

ハ、前記(二)ハ(一)ト共ニ一併伯林及羅馬ニテ提案シ其ノ具體的交渉ヲ東京ニ於テ行フ

(四)以上ノ了解ハ必シモ協定ノ形式ヲ執ルヲ要セサルモ獨伊ノ希望アルニ於テハ協定トスルヲ妨ケス

(日本標準規格B5)

外務省

B-0059

別紙第一

日獨伊提携強化ノ爲ノ基本トナルヘキ政治的的了解事項

一 日本及獨伊兩國ハ現在其實現ニ努力シツツアル世界ノ新秩序建設ニ關シ共通ノ立場ニ在ルコトヲ確認シ公正ナル世界平和ヲ助成増進スル爲相互協力ス

二 日本及獨伊兩國ハ夫々新秩序建設ノ爲日本ノ企圖スル南洋ヲ含ム東亞ニ於ケル生存圏竝獨伊ノ企圖スル歐洲及阿弗利加ニ於ケル生存圏ヲ相互ニ尊重シ右地域ニ於ケル新秩序建設ニ對シ相互ニ支持ヲ與フ

三 日本及獨伊兩國ハ相互ニ密接ナル經濟的協力ヲ行フ  
之カ爲其生存圏内ノ所産ノ優先的相互交易竝ニ技術ノ交換ヲ行フ

外務省

(日本標準規格B5)

ト共ニ夫々自己ノ生存圏内ニ於ケル相手國ノ經濟的活動ニ付好意的考慮ヲ加フ

四 日本及獨伊兩國ハ「ソ」聯トノ平和ヲ維持且「ソ」聯ノ政策ヲ兩者共通ノ立場ニ副ハシムル如ク利導スルコトニ協力スルト共ニ其ノ一方カ蘇聯ト戰爭狀態ニ入ル危險アル場合ニハ孰ルヘキ措置ニ關シ協議スルコトトス

五 日本及獨伊兩國ハ米國ヲシテ米大陸以外ノ方面ニ容喙セシメサルト共ニ之ニ對シ兩者ノ政治的經濟的利益ヲ擁護スル爲相互協力ス又其ノ一方カ米國ト戰爭狀態ニ入ル危險アル場合ニハ兩者ハ孰ルヘキ措置ニ關シ協議スルコトトス

日本及獨伊兩國ハ中南米ニ對スル施策ニ關シ緊密ニ協力ス

外務省

(日本標準規格B5)



備考

第四、第五項ハ秘密了解トスヘキモノトス

外務省

別紙第二

日本及獨伊兩國ノ歐洲戰爭及支那事變ニ對スル相互支持協力ニ關スル了解事項

一 日本及獨伊兩國ハ現在兩者カ夫々直面シ居ル支那事變及歐洲戰爭ノ解決ニ方リ何レモ英國カ其主要ナル敵性國ナルニ鑑ミ此見地ニ於テ左ノ如ク相互ニ支持協カス

日本ハ

(イ) 獨伊ノ希望スル東亞南洋方面所在物資ノ取得ニ關シ爲シ得ル限り便宜ヲ供與ス

(ロ) 南洋ヲ含ム東亞ニ於テ英國ニ對スル壓迫ヲ強化スルト共ニ獨伊ノ對英戰爭遂行ヲ容易ニスル爲爲シ得ル限り協カス

外務省

(日本標準規格B5)

B-0059

獨伊ハ

(1) 日本ノ希望スル機械類等ノ供給並ニ技術ノ援助ニ關シ爲シ得ル  
限リ協力ス

(2) 支那事變解決ノ爲協力ス

備考

本了解ハ秘密トス

外務省

(日本標準規格B5)

別紙第三

日獨伊提携強化ニ對處スル基礎要件

一帝國ノ東亞新秩序建設ノ爲ノ生存圏ニ就テ

(1) 獨伊トノ交渉ニ於テ帝國ノ東亞新秩序建設ノ爲ノ生存圏トシテ

考慮スヘキ範圍ハ

日滿支ヲ樞幹トシ、獨獨領委任統治諸島、佛領印度及同太平洋  
島嶼、泰國、英領馬來、英領「ボルネオ」、葡領東印度、「ピ  
ルマ」、濠洲、新西蘭並ニ印度等トス但シ交渉上我方が提示ス  
ル南洋地域ハビルマ以東、暹印、ニューカレドニア以北トシ濠  
洲、新西蘭及印度ニ付テハ後記(1)我方ノ意向ヲ反映セシムル  
コトトス

外務省

(日本標準規格B5)

B-0059

(四) 太平洋ニ於ケル英佛ノ舊獨領委任統治諸島ハ對米戰略上ノ必要ヨリ努メテ帝國ノ支配下ニ歸スル如ク處理ス  
 (五) 獨領東印度ハ獨立態勢ニアラシムルヲ目途トシ差當リ妙クモ我政治勢力下ニ直ク  
 右ニ關シ與一側進ノ提案ト相關ルルコトアル場合ニ於テモ獨領所産資源ノ優先的供給、獨印ニ於ケル獨進人ノ既存經濟經營權ニ關スル保障其他全般ニ於ケル政治的折衝ニ依リ獨印ニ於ケル帝國ノ政治的指導權ヲ認メシムルコトトス  
 (六) 佛領印度支那ニ關シテモ(五)ニ同ジ  
 (七) 歐洲及新西蘭ハ其ノ他ノ地域トハ其間幾分ノ遙隔ヲ存スルモ帝國ノ關心ヲ有スル所ナルコトニ差異ナク、從テ之カ更ニ東亞以

外務省

(日本標準規格 B5)

B-0059

昭和二十一年三月三十一日現在  
外務省  
資料

外務省

外ノ國ノ領土或ハ管理ニ變更セラルルヲ欲セス  
① 印度ニ關シテモ帝國カ關心ヲ有スルコト固ヨリナルカ、固「ソ」  
協力關係ト製造シ印度西那ニ於テハ考慮ノ餘地ヲ存ス  
② 日獨伊三國ノ經濟協力ニ就テ  
③ 交易ニ關シテ帝國ハ日滿支三國ノ農林水産物等ヲ供給スルノ外支  
那、佛印、蘭印等ノ特殊産物及ゴム等ノ供給ニ付協力ヲ與フ  
ベク獨伊ハ帝國ノ必要トスル技術ノ援助及設備機、機械化學  
製品類等ノ供給ヲ爲ス  
④ 右目的ノ爲メ々々經濟協定、貿易協定及支拂協定ヲ締結ス  
⑤ 日獨伊三國ノ間「ソ」及對米協力ニ關スル帝國ノ態度ニ就テ  
世界カ東亞、「ソ聯」、歐洲及米洲ノ間大分野ニ分ルルヲ豫見セ

(日本標準規格B5)

B-0059

外ノ國ノ領土或ハ管理ニ與ルセラルルヲ欲セス  
 (2) 印度ニ關シテモ帝國カ關心ヲ有スルコト固ヨリナルカ、固「ソ」  
 協力關係ト關係シ印度西屬ニ於テハ考慮ノ餘地ヲ存ス  
 且日獨伊三國ノ經濟協力ニ就テ  
 (4) 交易ニ關シ帝國ハ日獨支三國ノ農林水産物等ヲ供給スルノ外支  
 那、佛印、蘭印等ノ特殊産物及ゴム等ノ供給ニ付協力ヲ與フ  
 又日獨伊ハ帝國ノ必要トスル技術ノ援助及此種機、機械類化學  
 製品類等ノ供給ヲ爲ス

○ 相互經濟的提携ニ關シテハ帝國ハ特ニ支那及滿洲ニ於テ  
 獨伊ノ優先的地位ヲ認メ其ノ技術及施設ヲ參加セシム

又支那協定ヲ締結ス  
 又「ソ」ニ關シテハ帝國ノ態度ニ就テ

世界カ東亞、「ソ」聯、歐洲及非洲ノ四大分野ニ分ルルヲ豫見セ

外務省

(日本標準規格B5)

B-0059

ラブル戦後ノ新態勢ニ於テ東亞ノ指導者ヲ以テ任スル帝國ハ歐洲ノ指導勢力タル獨伊ト密接ニ提携シ

(1) 「ソ」聯ヲ東西兩方面ヨリ牽制シ、且之ヲ日獨伊共通ノ立場ニ關テ知テ利導シテ其勢力圍ノ進出方向ヲ日獨伊三國ノ利害關係ニ直接影響少キ方面例ヘハ波新灣ニ向テ方面ニ指向セシムル如ク努ムルト共ニ

(2) 又米國ニ付テハ米洲圍ニ對シカメテ平和ヲ維持スベキモ東亞及歐洲分野ノ政治的、經濟的提携ニ使リ所要ニ應ジ米國ニ對シ壓迫ヲ指向シ得ルノ態勢ヲ構成シ以テ帝國ノ主張ヲ貫徹スルニ寄與セシムル如ク策ス

且又獨伊ハ現在南米ニ相當ノ事具ト經濟的進歩トヲ有スルヲ以

外務省

(日本標準規格B5)

テ將來帝國ノ米國ニ對スル諸般ノ施策ニ之ヲ利用ス

(3) 日獨伊三國ノ對英協力ニ關スル帝國ノ態度ニ就テ

(4) 帝國ハ東亞新秩序建設ノ爲、南洋ヲ含ム東亞ニ於テ英國ノ政治的權益ヲ排除スルノ企圖ヲ有ス

而シテ右帝國ノ企圖ハ英國ノ地位ヲ薄弱化スルモノニシテ現ニ支那ニ於ケル帝國ノ對英政策カ自ラ歐洲戰場ニ有效ニ影響シ居ルコト事實ノ示ス所ナリ

(5) 帝國ハ更ニ獨伊ノ對英戰爭ニ一層協力スル爲獨逸ノ希望スル南洋ヲ含ム東亞所在資源ノ取得ニ對シテ協力ヲ惜マズ、又東亞ニ於ケル英國權益ノ排除、示威及宣傳ニ依ル協力屬領及殖民地ノ獨立運動支援等獨伊ノ對英戰爭ニ關シ一層ノ協力ヲ爲ス

外務省

(日本標準規格B5)

(イ) 帝國ハ(ウ)項ノ企圖達成ノ爲對英武力行使ノ場合之カ發動ノ時機  
 ハ(一)支那事變處理ノ進捗程度(二)戰爭準備進捗ノ程度(三)對米對一  
 ソ一外交体制整備ニ依リ制約セラル  
 獨伊側ヨリ對英軍事協力ヲ求メ來ル場合帝國ハ原則トシテ之  
 ニ應スルモ其發動ノ時機ニ關シテハ前記制約ヲ考慮シ自主的  
 之ヲ決定スルモノトス

外務省

(日本標準規格B5)

別紙第四

交渉方針要領

一 本提携強化具現ノ爲ニハ獨伊カ全力ヲ舉ケテ英國打倒ニ邁進シア  
 ル今ノ機會ヲ逸スヘカラス獨伊ノ戰勝確定後右折衝ヲ開始スルコ  
 トトナラハ其ノ效果ハ極メテ減少セラルルニ至ルヘキノミナラス  
 南洋ニ關シテ相當ノ關心ヲ有スル獨逸ノ態度ニモ亦何等カノ變化  
 ヲ來ス虞ナシトセザレハナリ  
 本件交渉ニ付テハ獨伊各別ニ行フモノトス、但獨伊側ヨリ三箇箇  
 ノ交渉ヲ希望シ來ル場合ニハ之ヲ考慮ス  
 二 歐洲戰爭及支那事變ニ對スル相互支持協力關係ノ了解ハ獨伊ニ對  
 スル提携強化ノ提議ノ際基本的了解ト同時ニ提案シ其ノ内容ニ付

外務省

(日本標準規格B5)

B-0059

テノ討議ハ東京ニ於テ之ヲ行フコトトスルモ前記ニ了解ハ一体不可分トス

獨伊ヲシテ帝國ノ南洋ヲ含ム東亞ニ於ケル生存圈ヲ尊重セシムヘキ別紙第一(一)ノ交渉ニ於テハ南洋ヲ含ム東亞全般ニ付包括的ニ帝國ノ政治的指導權ヲ認メシムルコトヲ主張トス但シ獨伊側ヨリ特定地區ニ何等暫保的讓渡ニ出ツル場合ニハ別紙第三日獨伊提携強化ニ對處スル並發要件(一)(二)項以下ヲ休シ右地區ニ付具體的折衝ヲ行ヒ之ヲ容認セシム

別紙第三日獨伊提携強化ニ對處スル並發要件第四項(一)ニ關シ獨伊側ヨリ對英軍事協力の實現ヲ求タル場合ニ於テハ帝國トシテハ原則トシテ之ニ應ズルノ用意アルモ武力發動ニ關シテハ附隨ノ制

外務省

CH 本標準規格 B 57

約アルヲ以テ其ノ發動時期(即參戰時期)ハ帝國力自主的ニ決定スヘキ旨ヲ以テシ獨伊側ヨリ右軍事協力の要求メ來ル場合ニハ前記趣旨ヲ諒解セシムルト共ニ獨伊側ヲシテ帝國ノ對英武力發動ノ諸制約ヲ解除スルコトニ同調セシムル如クナスモノトス

外務省

CH 本標準規格 B 57

B-0059



1298

31957

電信課長

札

(時)

昭和十五年九月廿四日午後五時

在独来栖大使宛

松岡大臣

(独伊領土協定) 大意

日独伊極軸強化ノ目的ニ于テ去ル九月以来本大臣ト  
「オフト大使」及「スター」公使 (七日來朝) ト詰合  
ヲ遂ゲ来リタル處

一ハ結一宇ノ精神ニ則リ世界新秩序建設ヲ目的  
トシ大東亞ニ於テ日本、歐洲ニ於テ、独伊ノ指導  
的地位ヲ認め且尊重シ互ニ協力スルコト

外務省

|                        |
|------------------------|
| ニ三國中ノ一國カ現ニ歐洲戰爭又ハ日支紛争   |
| ニ參入シ居ラザル一國ヨリ攻撃ヲ受ケタルトキハ |
| 政治的 經濟的 及 軍事的ニ相互ニ援助スベキ |
| コト                     |
| ノ趣旨ノ三國條約ヲ締結スルニ決定シ既ニ貴任  |
| 國政府ヲ通シ伊大利政府トモ協議済ムヲ以テ   |
| 不日東京又ハ柏林 (独逸政府ハ柏林ヲ希望ス) |
| ニテ調印、遂ニ至ル見込ナリ          |

外務省

B-0059

件は...  
 件名...  
 件...  
 件...

次官

|         |               |                           |
|---------|---------------|---------------------------|
| 電信課長    | 電送第 32015 號   | 昭和十五年九月二十四日 午後 11 時 20 分發 |
|         | 極秘 第六四三 號 大至急 | 件名 日和伊之國條約之圖件             |
| 主任 藤田 長 | 宛 在 松岡 大使     | 發 松岡 大使                   |
| 主任 藤田 長 | 記 録 名 件       |                           |

日和伊之國條約日本文做確定案別電

通

電信課長  
 主任 藤田 長  
 主任 藤田 長  
 昭和十五年九月二十四日 草

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| 外務省 | 右絶対置官限り、即令迄<br>件之轉覆有度 |
|-----|-----------------------|

...

B-0059

次官

24日付11時20分

32016-32017

借付金...  
貸付金...  
...

電信課

長

主務局長

主任

(起草昭和十五年九月二十六日)

(原議用紙甲) 国納

件日独伊三國條約文之閣下件

名込綴

宛在私 末極大使

松岡大正

極秘 第六四四號

大至急

別電

電信案

外務



信案

B-0059

日本國、獨逸國及伊太利國三國條約

大日本帝國政府、獨逸國政府及伊太利國政府ハ萬邦ヲシテ各其ノ所  
ヲ得シムルヲ以テ恒久平和ノ先決要件ナリト認メタルニ依リ大東亞  
及歐洲ノ地域ニ於テ各其ノ地域ニ於ケル當該國族ノ共存共榮ノ實ヲ  
舉グルニ足ルベキ新秩序ヲ建設シ且之ヲ維持センコトヲ根本義ト爲  
シ右地域ニ於テ此ノ趣旨ヲ據レル努力ニ付相互ニ提携シ且協力スル  
コトニ決意セリ爾レシテ三國政府ハ更ニ世界到ル所ニ於テ同様ノ努力  
ヲ爲サントスル兩國ニ對シ協力ヲ寄マザルモノニシテ斯クシテ世界  
平和ニ對スル三國終局ノ擔負ヲ實現センコトヲ欲ス依テ日本國政府、  
獨逸國政府及伊太利國政府ハ左ノ趣旨ヲ協定セリ

第一條

外務省

(日本標準規格B5)

日本國ハ獨逸國及伊太利國ノ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ關シ指導的  
地位ヲ認メ且之ヲ尊重ス

第二條

獨逸國及伊太利國ハ日本國ノ大東亞ニ於ケル新秩序建設ニ關シ指導  
的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ス

第三條

日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記ノ方針ニ基テ努力ニ付相互ニ協力  
スベキコトヲ約ス更ニ三締約國中何レカノ一國ガ現ニ歐洲戰爭又ハ  
日支紛争ニ參入シ居ラザル一國ニ依テ攻撃セラレタルトキハ三國ハ  
有ラニル政治的、經濟的及軍事的方法ニ依リ相互ニ援助スベキコト  
ヲ約ス

(日本標準規格B5)

外務省

B-0059

第四條  
 本條約實施ノ爲各日本國政府、獨逸國政府及伊太利國政府ニ依リ任命セラレベキ委員ヨリ成ル。混合專門委員會ハ通商ナク開催セラレベキモノトス

第五條  
 日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記條項ガ三締約國ノ各ト「ソ。グ。イ。エ。ト。」聯邦トノ間ニ現存スル政治的状態ニ何等ノ影響ヲモ及ボサザルモノナルコトヲ確認ス

第六條  
 本條約ハ署名ト同時ニ實施セラレベク、實施ノ日ヨリ十年間有効トス

(日本標準規格B5)

外務省

右期間満了前適當ナル時期ニ於テ締約國中ノ一國ノ要求ニ基キ締約國ハ本條約ノ更新ニ關シ協議スベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和 年 月 日即チ 年 月 日  
 ニ於テ本誓三通ヲ作成ス

(日本標準規格B5)

外務省

B-0059

電信課長

主任 條約局長

主任 條約局長 第二課長

昭和十五年九月二十四日起草

電送第 32019 號  
昭和十五年九月二十四日 11時20分發

宛 在 独  
素 樫 大 使  
日 独 伊 三 國 條 約 一 回  
件 三 件

記 録 名 件  
發 松 岡 大 臣

暗 本 六四八 (鈴木符子)

往 電 第 六 四 三 号 之 間 已

日 独 伊 三 國 條 約 一 大 体 貴 地 ニ 于 調 印 ノ 以 上 七

ヲ キ 小 ト 一 英 文 ノ ミ ト ス ル 力 或 ハ 三 國 語 ト ス ル 力 未 定

電 信 案

外 務 省

(原議用紙乙)

九 二 付 三 國 語 ニ 于 調 印 セ ン 場 合 予 想 之 不 取  
取 案 又 電 報 セ ン 次 第 ナ リ 熟 考 一 大 体 合 一 上 尚  
些 少 ノ 字 句 ノ 変 更 ア ル ヤ モ 計 リ 難 キ モ 調 印 本 書  
作 成 準 備 手 配 ア リ 度

電 信 案

外 務 省

B-0059

電信案

外務省

英文「テキスト」不取敢別電ス

(原議用紙乙)

電信案

外務省

往電第六四八号ニ関シ

英文ノミニテ不取敢署名シ(此ノ点絶対極秘)其ノ後日独伊三国文トスリ代フルストナルヤモ(圖ラレザルニ付)

|                  |            |
|------------------|------------|
| 件                | 宛          |
| スル件              | 在独<br>末栖大使 |
| 日独伊三国条約ノ圖        | 發<br>松岡大臣  |
| 第六四九號 (大至急) 館長符号 | 名件録記       |

電話第 32029 號  
昭和十五年九月二十五日 午後 4時40分發

管主 電信課長 藤田 知  
主任 藤原高第課長 知

昭和十五年九月二十五日起草

B-0059

|             |                           |                           |                           |
|-------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 電<br>信<br>案 | 別<br>電                    | 電送第 32030 一 號             | 管 主                       |
|             |                           | 32033                     | 總 務 長 官 知                 |
|             |                           | 昭和十五年九月二十五日 午後 4 時 46 分 發 | 主 任 總 務 長 官 知             |
|             |                           | 件 宛                       |                           |
|             |                           | 文) 日独印三國條約英<br>テキスト       | 在 独<br>来 栖 大 使            |
|             | 第 六 五 二 號 (大 至 急 館 長 符 号) | 名 件 録 記                   | 發 杉 岡 大 臣                 |
| 外<br>務<br>省 |                           |                           | 昭 和 十 五 年 九 月 二 十 五 日 起 草 |

B-0059



ARTICLE 3.

Japan, Germany and Italy agree to co-operate in their efforts on the aforesaid lines. They further undertake to assist one another with all political, economic and military means when one of the three Contracting Parties is attacked by a power at present not involved in the European War or in the Sino-Japanese Conflict.

ARTICLE 4.

With a view to implementing the present Pact, Joint Technical Commissions the members of which are to be appointed by the respective Governments of Japan, Germany and Italy will meet without delay.

ARTICLE 5.

Japan, Germany and Italy affirm that the aforesaid terms do not in any way affect the political status which exists at present as between each of the three Contracting Parties and Soviet Russia.

ARTICLE 6.

The present Pact shall come into effect immediately upon signature and shall remain in force for ten years from the date of its coming into force.

At

At proper time before the expiration of the said term the High Contracting Parties shall, at the request of any one of them, enter into negotiations for its renewal.

In faith whereof, the Undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed this Pact and have affixed hereto their Seals.

Done in triplicate at , the day of

(the month of the year of Syowa, corresponding to the .

.Three Powers Pact Between Japan, Germany and Italy.

The Governments of Japan, Germany and Italy, considering it as the condition precedent of any lasting peace that all nations of the world be given each its own proper place, have decided to stand by and co-operate with one another in regard to their efforts in Greater East Asia and the regions of Europe respectively wherein it is their prime purpose to establish and maintain a new order of things calculated to promote mutual prosperity and welfare of the peoples concerned. Furthermore it is the desire of the three Governments to extend co-operation to such nations in other spheres of the world as may be inclined to put forth endeavours along lines similar to their own, in order that their ultimate aspirations for world peace may thus be realized. Accordingly the Governments of Japan, Germany and Italy have agreed as follows:

ARTICLE 1.

Japan recognizes and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.

ARTICLE 2.

Germany and Italy recognize and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.

ARTICLE 3.

B-0059 |

次官

電信課長

25 85

|     |         |      |            |               |
|-----|---------|------|------------|---------------|
| 管主  | 條約局長    | 主任   | 條約局長       | 昭和十五年九月二十五日起草 |
| 電話第 | 32152   | 宛    | 在独         |               |
| 昭和  | 15.9.25 | 件    | 日独伊三国条約の調印 |               |
| 分   | 10      | 名件録記 | 松岡大臣       |               |
| 第   | 六五四     |      |            |               |
| 往電第 | 六四九号    |      |            |               |
| 英文  | テキスト    |      |            |               |
| キスト | ニ出典地    |      |            |               |

|        |              |         |
|--------|--------------|---------|
| シ之トスリ代 | 此其ノ絶對外部ニ漏サレハ | (原議用紙乙) |
| シ之トスリ代 | フルストニ決定セルガ   |         |
| シ之トスリ代 | 於テハ明ニ        |         |
| シ之トスリ代 | 二十六日         |         |
| シ之トスリ代 | ニ明後ニ         |         |
| シ之トスリ代 | 二十七日         |         |
| シ之トスリ代 | ハ其地ニ         |         |
| シ之トスリ代 | 於テ本件         |         |
| シ之トスリ代 | 条約ノ調印        |         |
| シ之トスリ代 | 可能ナルベシ       |         |
| シ之トスリ代 | ト打合          |         |
| シ之トスリ代 | 本件条約ノ        |         |
| シ之トスリ代 | 如キ事          |         |
| シ之トスリ代 | 前ニ片裁         |         |
| シ之トスリ代 | 可ヲ經テ         |         |
| シ之トスリ代 | 調印スル         |         |
| シ之トスリ代 | 条約           |         |
| シ之トスリ代 | ニ對シテハ        |         |
| シ之トスリ代 | 全權即委任        |         |
| シ之トスリ代 | 状ノ御下         |         |
| シ之トスリ代 | 付ナシ          |         |
| シ之トスリ代 | 単ニ本大臣        |         |
| シ之トスリ代 | ヲ            |         |
| シ之トスリ代 | 訓令ニ基キ        |         |
| シ之トスリ代 | 調印スル         |         |
| シ之トスリ代 | 例トスル         |         |
| シ之トスリ代 | モ在           |         |
| シ之トスリ代 | 京            |         |
| シ之トスリ代 | 独逸           |         |
| シ之トスリ代 | 大使           |         |
| シ之トスリ代 | 館            |         |

B-0059

決  
官

|             |                |                    |                         |
|-------------|----------------|--------------------|-------------------------|
| 電<br>信<br>案 | 主 管<br>條約局長    | 電 話 第 1502532153 號 | 時 分                     |
|             | 任 主<br>條約局長    | 日 時 分              | 時 分                     |
| 外<br>務<br>省 | 在 獨<br>來 栖 大 使 | 件 宛                | 日 独 伊 三 國 條 約<br>關 係 件  |
|             | 發<br>松 岡 大 臣   | 名 件 錄 記            | 第 六 五 五 號 大 至 急 館 長 符 号 |

電信課長

昭和五年九月二十五日起草

25 86

電 信 案

外 務 省

ヲ送津不ムトニ在 京 独 大 使 館 ト 打 合 濟

同 大 使 館 七 世 官 電 報 丸

合セ置カレ度尚本電報局ハ本大臣ヲ在 京 独 大 使 之ニ

ヲ定方ニ提示シテ調印セラルルニト致度有予メ独側ト打

ヲ定ニテ予メ用意ニ置カレ度)右電報接交ノ上ハ其ノ寫

ヲリ貴使宛電報スルニト致シタルニ依リ(尤モ別電ニ依リ日附

基キ沛裁可アリ次第別電第六五五号ノ趣旨ヲ本大臣

ヨリノ希望モアリ日独防共協定締結ノ際、於ケル先例、

(原議用紙乙)

B-0059

(Übertragung)

Tokio, ..... Syōwa.

(amtliches Inseigel) Der Minister des Auswärtigen

Amtes

Yosuke Matsuoka

An

dem ~~Gez~~ Ausserordentlichen und Bevollmächtigten

外務省

Botenboten in Berlin,

Herrn Kurusu

Seine Majestät der Kaiser haben,

nachdem die Beibehaltung des kaiserlichen Geheimen  
Staatsrates abgeschlossen ist, mit dem heutigen

Datum dem Abschluss des Dreimächtepaktes

zwischen Japan, Deutschland und Italien

外務省

zu bewilligen geruht.  
Sie sind damit bevollmächtigt,  
den oben genannten Pakt zu unterzeichnen  
und zu versiegeln.

外務省

B-0059

大臣 次官 東亞局長 歐亞局長 亞米利加局長 通商局長 條約局長 情報部長 人事部長 會計課長

淨書主任

懸案

發信用執務用

4

文書課長

文書課長

主 管 條約局長

條約局第一課長

條一機密 第七號

昭和十五年九月二十五日附 附屬

淨書 原稿

正校(原稿)

(淨書)

昭和十五年九月二十五日起草

近衛内閣總理大臣

松岡外務大臣

件 日本國、独逸國及伊右利國間三國條約締結方  
名 御裁可奏請ノ件

日本國、独逸國及伊右利國間三國條約締結方ノ關シ

後ヲ關係國間ニ高議中ナリシ處今般有ニ關シ別添ノ

外務省

外務省

通條約案ノ要領ヲ見ニ運ト相成候

仍テ在独帝國特命全權大使ヲシテ右條約ニ署名

セシムト致度ニ付右御裁可奏請方至急可然

申取計相成度別紙上奏案相添へ此段及請議候也

追テ条約案本日本文

註ニ外務大臣ト在京独逸國大使トノ間ノ交換文書三種類

日本文及英吉利文各五部夫々添附致置候

公信案

外務省

B-0059



11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31

(上奏案)

日本國、独逸國及伊太利國間三國條約締結ノ件  
御裁可アラセウレ候様仕度此段謹テ奏ス

昭和十五年九月二十五日

外務大臣 松岡洋右

公  
信  
案

外  
務  
省

B-0059





日本國、獨逸國及伊太利國間三國條約

日本國、獨逸國及伊太利國間三國條約

大日本帝國政府、獨逸國政府及伊太利國政府ハ萬邦ヲシテ各其ノ所ヲ得シムルヲ以テ恆久平和ノ先決要件ナリト認メタルニ依リ大東亞及歐洲ノ地域ニ於テ各其ノ地域ニ於ケル當該民族ノ共存共榮ノ實ヲ舉グルニ足ルベキ新秩序ヲ建設シ且之ヲ維持センコトヲ根本義ト爲シ右地域ニ於テ此ノ趣旨ニ據レル努力ニ付相互ニ提携シ且協力スルコトニ決意セリ而シテ三國政府ハ更ニ世界到ル所ニ於テ同様ノ努力ヲ爲サントスル諸國ニ對シ協力ヲ各マザルモノニシテ斯クシテ世界平和ニ對スル三國終局ノ抱負ヲ實現センコトヲ欲ス依テ日本國政府、獨逸國政府及伊太利國政府ハ左ノ通協定セリ

第一條

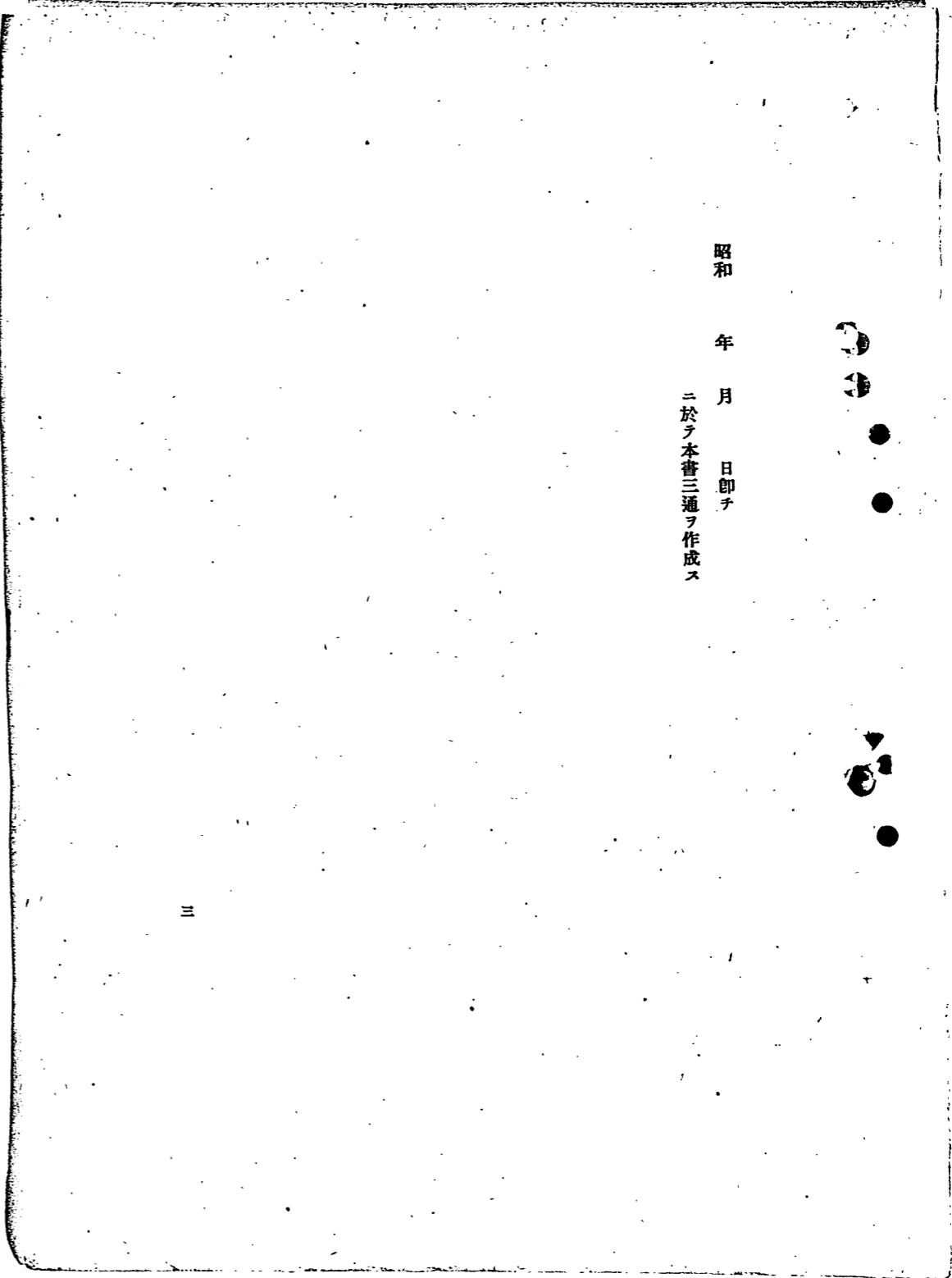
日本國ハ獨逸國及伊太利國ノ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ關シ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ス

第二條

獨逸國及伊太利國ハ日本國ノ大東亞ニ於ケル新秩序建設ニ關シ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ス

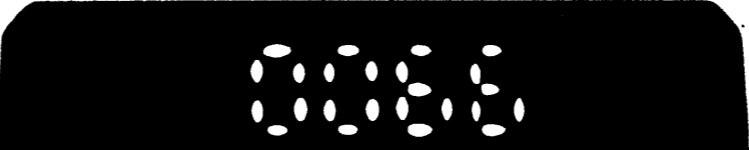
第三條

日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記ノ方針ニ基テ努力ニ付相互ニ協力スベキコトヲ約ス更ニ三締約國中何レカノ一國ガ現ニ歐洲戰爭又ハ日支紛争ニ參入シ居ラザル一國ニ依テ攻撃セラレタルトキハ三國ハ



昭和  
年 月 日即チ  
ニ於テ本書三通ヲ作成ス

B-0059 |



— 2 —

ARTICLE 3.

Japan, Germany and Italy agree to co-operate in their efforts on the aforesaid lines. They further undertake to assist one another with all political, economic and military means when one of the three Contracting Parties is attacked by a power at present not involved in the European War or in the Sino-Japanese Conflict.

ARTICLE 4.

With a view to implementing the present Pact, Joint Technical Commissions the members of which are to be appointed by the respective Governments of Japan, Germany and Italy will meet without delay.

ARTICLE 5.

Japan, Germany and Italy affirm that the aforesaid terms do not in any way affect the political status which exists at present as between each of the three Contracting Parties and Soviet Russia.

ARTICLE 6.

The present Pact shall come into effect immediately upon signature and shall remain in force for ten years from the date of its coming into force.

At proper time before the expiration of the said term the High Contracting Parties shall, at the request of any one of them, enter into negotiations for its renewal.

— 3 —

In faith whereof, the Undersigned, duly authorized by their respective Governments, have signed this Pact and have affixed hereto their Seals.

Done in triplicate at \_\_\_\_\_, the \_\_\_\_\_ day of the \_\_\_\_\_ month of the \_\_\_\_\_ year of Syōwa, corresponding to the \_\_\_\_\_ the \_\_\_\_\_

B-0059

**THREE POWERS PACT BETWEEN JAPAN,  
GERMANY AND ITALY.**

The Governments of Japan, Germany and Italy, considering it as the condition precedent of any lasting peace that all nations of the world be given each its own proper place, have decided to stand by and co-operate with one another in regard to their efforts in Greater East Asia and the regions of Europe respectively wherein it is their prime purpose to establish and maintain a new order of things calculated to promote mutual prosperity and welfare of the peoples concerned. Furthermore it is the desire of the three Governments to extend co-operation to such nations in other spheres of the world as may be inclined to put forth endeavours along lines similar to their own, in order that their ultimate aspirations for world peace may thus be realized. Accordingly the Governments of Japan, Germany and Italy have agreed as follows:

**ARTICLE 1.**

Japan recognizes and respects the leadership of Germany and Italy in the establishment of a new order in Europe.

**ARTICLE 2.**

Germany and Italy recognize and respect the leadership of Japan in the establishment of a new order in Greater East Asia.

B-0059 |

秘

**THREE POWERS PACT**  
**BETWEEN**  
**JAPAN, GERMANY AND ITALY.**

B-0059 |

一絶對秘

機密

在京獨逸國大使ヨリ外務大臣宛來翰案

以書翰啓上致候該者本月九日東京ニ於テ開始セラレタル吾人ノ會談ノ結果幸ニシテ三國條約ノ締結ニ到達セントスルニ當リ閣下ガ會談中終始最モ寛容ニシテ且友好的ナル精神ヲ以テ主要ナル役割ヲ果サレタルコトニ對シ閣下ニ向テ深甚ナル謝意ヲ表明スルコトハ「スターマー」公使及本使ノ最モ眞摯ナル希望ニ有之候  
吾人ハ此ノ機會ニ於テ閣下ト吾人トノ會談ニ於テ反覆セラレタル若干ノ主要事項ニ付再ビ本書翰ニ於テ左記ノ通譯述セント欲スルモノ有之候

獨逸國政府ハ締約國ハ夫々大東亞及歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ極導的地位ヲ占ムルヲ任務トスル世界歴史ニ於ケル新ナル且決定的

2

ナル段階ニ入ラントスルモノナルコトヲ確信ス  
將來長期ニ亘リ締約國ノ利害關係ガ一致スベキ事實及締約國ノ絶對的相互信頼ハ條約ノ確乎タル基礎ヲ成スモノトス  
獨逸國政府ハ條約實施ニ關スル技術的細目ハ困難ナク決定セラレベク條約實施中ニ發生スベキ有ラユル事態ヲ豫想スルハ條約ノ重要性ト一致セズ且實際上不可能ナルコトヲ確信ス右事態ハ發生スル毎ニ相互信頼及互助ノ精神ニ基キテノミ處理セララルベシ  
條約第四條ニ規定セラレタル專門委員會ノ決定ハ夫々關係各國政府ノ承認ヲ經ルニ非ザレバ實施セララルコトナカルベシ  
一締約國ガ條約第三條ノ意義ニ於テ攻撃セラレタリヤ否ヤハ三締約國間ノ協議ニ依リ決定セラルベキコト勿論トス

B-0059

5  
條約ノ意圖スル所ニ反シ日本國ガ未ダ歐洲戰爭又ハ支那事變ニ參  
加シ居ラザル一國ニ依リ攻撃セラレタル場合ニハ獨逸國ハ日本國  
ニ全面的支持ヲ與ヘ且有ラユル軍事的及經濟的手段ヲ以テ日本國  
ヲ援助スベキコト當然ナリト思考ス  
日本國ト「ソヴェエト」聯邦トノ關係ニ關シテハ獨逸國ハ其ノ力  
ノ及ブ限り友好的了解ヲ増進スルニ努ムベク且何時ニテモ右目的  
ノ爲獨逸國ノ勢ヲ執ルベシ

獨逸國ハ日本國ヲシテ大東亞ニ於ケル新秩序ノ建設ヲ容易ナラシ  
ムルト共ニ如何ナル危局ニ對シテモ充分備フル所アラシムル爲自  
國ノ工業能力及ニ其ノ他ノ技術的及物質的資源ヲ能ク限リ日本國  
ノ爲ニ使用スベシ更ニ獨逸國及日本國ハ有ラユル方法ニ依リ其ノ

必要トスル原料品及鑛物（油ヲ含ム）ヲ獲得スル爲相互ニ援助ス  
ベキコトヲ約ス

獨逸國外務大臣ハ前記諸事項ニ關聯シ伊太利國ノ援助及協力が要  
請セララルトキハ伊太利國ハ勿論獨逸國及日本國ト同調スベキコ  
トヲ絕對ニ信ズルモノナリ

本使ハ右陳述ヲ特別代表者「スターマー」公使ニ依リ親シク齎サレ  
且本國政府ヨリ繰返シ本使ニ傳達セラレタル獨逸國外務大臣ノ見解  
トシテ閣下ニ提示スルモノニ有之候  
本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和 年 月 日

(秘  
説)  
(絶  
極  
秘)

外務大臣ヨリ在京獨逸國大使宛往翰案

以書翰啓上致候陳者本大臣ハ本日附書翰第 號ヲ受領スルノ光

榮ヲ有スルト共ニ右書翰ノ内容ヲ了承スルヲ欣幸トスルモノニ有之

候

本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ電ヲ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和 年 月 日

B-0059



I avail myself of this opportunity to renew to  
Your Excellency the highest consideration.

Strictly Confidential (Draft)

Letter from the German Ambassador to the Foreign  
Minister

Excellency:

I have the honour to acknowledge receipt of Your  
Excellency's letter of this date No. 1111 and to confirm  
the oral declaration set forth therein as made by me con-  
cerning the former German Colonies in the South Seas.

I avail myself of this opportunity to renew to Your  
Excellency the highest consideration.



Strictly Confidential (Draft)

Letter from the Foreign Minister to the  
German Ambassador.

Excellency:

I have the honour to ask Your Excellency to  
confirm the following oral declaration which was made  
by Your Excellency on behalf of the German Government:

"The German Government agree that the former  
German Colonies actually under Japan's Mandate  
in the South Seas shall remain in Japan's posses-  
sion, it being understood that Germany be in a  
way compensated therefor. In regard to other  
former Colonies in the South Seas, they shall be  
restored automatically to Germany upon conclusion  
of peace ending the present European War. After-  
wards the German Government would be prepared to  
confer, in an accommodating spirit, with the  
Japanese Government with a view to disposing of  
them as far as possible in Japan's favour against  
compensation."

I

B-0059

(假 譯)  
(絶對極秘)

在京獨逸國大使ヨリ外務大臣宛來翰案

以書翰啓上致候陳者本使ハ本日附貴翰第 號ヲ閱悉シ且右貴翰

中ニ掲ゲラレタル南洋ニ於ケル舊獨逸國殖民地ニ關シ本使ノ爲シタ

ル口頭宣言ヲ確認スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

外機密

(假) (絶對機密)

外務大臣ヨリ在京獨逸國大使宛往翰案

以書翰啓上致候陳者本大臣へ閣下ガ獨逸國政府ノ爲ニ爲サレタル左

記口頭宣言ヲ確認セラレシコトヲ希望致候

「獨逸國政府へ南洋ニ於テ現ニ日本國ノ委任統治下ニ在ル舊獨逸

國殖民地ガ引續キ日本國ノ屬地タルコトニ同意スベク之ガ爲獨逸

國ハ何等カノ代價ヲ受ケルモノトス南洋ニ於ケル其ノ他ノ舊殖民

地ニ關シテハ右殖民地へ現歐洲戰爭ヲ終結スル平和ノ成立ト共ニ

自働的ニ獨逸國ニ復歸スベシ然ル後獨逸國政府ハ出來得ル限り日

本國ニ有利ニ右殖民地ヲ有償ニテ處分スル目的ヲ以テ友好的精神

ニ基キ日本國政府ト協議スルノ用意アリ

本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具



B-0059

in their power.

I avail myself of this opportunity to renew to  
Your Excellency the highest consideration.

Strictly Confidential (Draft)

極秘

Letter from the Foreign Minister to the  
German Ambassador.

Excellency:

I have the honour to inform Your Excellency that, the Japanese Government earnestly share the hope with the Governments of Germany and Italy that the present European War will remain limited as far as possible in its sphere and scope and will come to a speedy conclusion and that they shall on their part spare no effort in that direction.

However, the conditions actually prevailing in Greater East Asia and elsewhere do not permit the Japanese Government to rest assured in the present circumstances that there is no danger whatever of an armed conflict taking place between Japan and Great Britain, and accordingly they desire to call attention of the German Government to such a possibility and to state that they feel confident that Germany will do their utmost to aid Japan in such eventuality with all means

in

Japan and Great Britain, and accordingly they desire to call attention of the German Government to such a possibility and to state that they feel confident that Germany will do their utmost to aid Japan in such eventuality with all means in their power."

I take this occasion to note the contents of Your Excellency's letter.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the highest consideration.

Strictly Confidential (Draft)

Letter from the German Ambassador to the Foreign Minister.

Excellency:

I have the honour to acknowledge receipt of Your Excellency's letter of this date No. 1111 with the contents as follows:

"I have the honour to inform Your Excellency that, the Japanese Government earnestly share the hope with the Governments of Germany and Italy that the present European War will remain limited as far as possible in its sphere and scope and will come to a speedy conclusion and that they shall on their part spare no effort in that direction.

However, the conditions actually prevailing in Greater East Asia and elsewhere do not permit the Japanese Government to rest assured in the present circumstances that there is no danger whatever of an armed conflict taking place between

Japan

(假  
絶密極秘)

在京獨逸國大使ヨリ外務大臣宛來翰案

以書翰啓上致候陳者本使へ左記内容ヲ有スル本日附貴翰第 號

ヲ閱悉致候

「本大臣へ日本國政府へ獨逸國及伊太利國政府ト均シク現在ノ歐  
洲戰爭ガ其ノ範圍及規模ニ於テ能フ限リ制限セラレ且餘邊ニ終結  
センコトヲ熱望スル旨竝ニ日本國政府ニ於テモ右目的ニ對シ有ラ  
ユル努力ヲ惜マザルベキ旨ヲ通報スルノ光榮ヲ有シ候  
然レドモ大東亞及其ノ他ノ地方ニ於ケル現狀ニ鑑ミ日本國政府へ  
日英間ニ何等武力紛争發生ノ危險ナキコトヲ現下ノ情勢ニ於テ確  
信スルコト能ハザル次第ニ有之從テ日本國政府へ獨逸國政府ニ書

1

コトヲ確信スル旨陳述スルモノニ有之候

本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和 年 月 日

2

B-0059

外機密

(假 譯)  
(絕對極秘)

外務大臣ヨリ在京獨逸國大使宛往翰案

以書翰啓上致候。隨者本大臣ハ日本國政府ハ獨逸國及伊太利國政府ト均シク現在ノ歐洲戰爭ガ其ノ範圍及規模ニ於テ能フ限り制限セラレ且急速ニ終結センコトヲ熱望スル旨竝ニ日本國政府ニ於テモ右目的ニ對シ有ラユル努力ヲ惜マザルベキ旨ヲ通報スルノ光榮ヲ有シ候。然レドモ大東亞及其ノ他ノ地方ニ於ケル現状ニ鑑ミ日本國政府ハ日英間ニ何等武力紛争發生ノ危險ナキコトヲ現下ノ情勢ニ於テ確信スルコト能ハザル次第ニ有之。從テ日本國政府ハ獨逸國政府ニ對シ右可能性ニ付注意ヲ喚起スルト共ニ日本國政府ハ右ノ如キ場合ニ獨逸國ガ其ノ有スル一切ノ手段ニ依リ日本國ヲ援助スル爲最善ヲ盡サルル

シ右可能性ニ付注意ヲ喚起スルト共ニ日本國政府ハ右ノ如キ場合ニ獨逸國ガ其ノ有スル一切ノ手段ニ依リ日本國ヲ援助スル爲最善ヲ盡サルルコトヲ確信スル旨陳述スルモノニ有之候。

本使ハ此ノ機會ニ於テ貴翰ノ内容ヲ了承致候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ是テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和 年 一月 日



If Japan, contrary to the intentions of the Pact, should be attacked by a Power so far not engaged in the European War or the China Incident, Germany will consider it a matter of course to give Japan full support and assist it with all military and economic means.

With regard to the relations between Japan and Soviet Russia, Germany will do everything within its power to promote a friendly understanding and will at any time offer its good offices to this end.

Germany will use her industrial capacity and other resources technical and material as far as possible in favour of Japan in order both to facilitate the establishment of a new order in Greater East Asia and to enable her to be better prepared for any emergency. Germany and Japan will further undertake mutually to aid each other in procuring in every possible way raw materials and minerals, including oil which they will have been in need of.

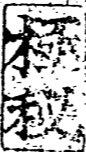
The German Foreign Minister implicitly believes that Italy will of course act in concord with Germany and

and Japan when and where assistance and co-operation by Italy is sought in reference to the matters above enumerated.

I have the honour to present to Your Excellency the above exposé as the views of the German Foreign Minister conveyed personally by his special delegate, Minister Stahmer, and repeatedly transmitted to me from my Government.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

gez. Ott.



Strictly confidential (Draft)

Personal letter of the German Ambassador to  
His Excellency the Imperial Japanese Foreign Minister.

Excellency:

At the moment when our conversations, begun on the 9th instant at Tokyo, are about to eventuate in a successful conclusion of the Three Powers Pact, it is Minister Stahmer's and my sincerest desire to tender to Your Excellency the expression of deepest appreciation for the principal part Your Excellency has played throughout in a most generous and accommodating spirit.

We wish to take this occasion to state once more in this letter some of the salient points reiterated in our conversations with Your Excellency which are as follows:

The German Government are convinced that the Contracting Parties are about to enter into a new and decisive phase of world history in which it will be their task to assume the leadership in the establishment of a new order in Greater East Asia and Europe respectively.

The fact that for a long time to come their interests

will

- 2 -

will coincide and the unrestricted mutual confidence of the Contracting Parties form the solid foundation on which the Pact is built.

The German Government firmly believe that the technical details concerning the execution of the Pact will be settled without difficulties and that it would not be in keeping with the far-reaching importance of the Pact and it would be practically impossible to anticipate all possible cases which might arise in the course of its application; they can only be dealt with in the spirit of mutual confidence and helpfulness as they arise, from time to time.

Conclusions of the Technical Commissions stipulated in Article 4. of the Pact shall be submitted to the respective Governments for approval in order to be put in force.

It is needless to say that whether or not a Contracting Party has been attacked within the meaning of Article 3, of the Pact shall be determined upon consultation among the three Contracting Parties.

If

B-0059

Strictly Confidential (Draft)

Letter from Foreign Minister to  
German Ambassador.

Excellency:

I have the honour to acknowledge receipt of  
Your Excellency's letter No. 1111 of this date and  
I feel happy to take note of the contents therein.

I avail myself of this opportunity to renew  
to Your Excellency the highest consideration.

B-0059 |

46

松

(第 號)

證

一封書一通

但(大聖)

右正三領收候也

昭和十五年九月三日

木戸

松 同 様

1511

B-0059

極秘

6

東京獨逸國大使館

譯文

拜啓陳者獨逸國政府は閣下より余に御届け相成候日  
獨伊三國間の三國協定の條文に同意せし旨、命に據り  
閣下に御通告申上候

本國政府より余に届け越候本協定の正本獨逸國譯文を  
茲に添附仕候

この機會に閣下に向ひ重ねて敬意を表し候

敬具

昭和十五年九月廿五日、東京にて

獨逸國大使オット（自署）

外務大臣 松岡洋右閣下

B-0059

Deutsche Botschaft

Tokyo, den 25. September 1940.

Pol. 43.

1 Anlage.

Vertraulich.

九月二十五日  
松岡外務大臣  
御送付  
文

Herr Minister,

Euerer Exzellenz beehre ich mich auftragsgemäss mitzuteilen, dass die Deutsche Reichsregierung dem mir von Euerer Exzellenz übermittelten Text des Drei-Mächte-Pakts zwischen Japan, Deutschland und Italien zugestimmt hat.

Die amtliche deutsche Übersetzung des Pakts, die mir von meiner Regierung übermittelt wurde, gestatte ich mir, in der Anlage beizufügen.

Ich benutze diese Gelegenheit, um Euere Exzellenz erneut meiner ausgezeichnetsten Hochachtung zu versichern.

Seiner Exzellenz  
dem Kaiserlich Japanischen Minister  
der Auswärtigen Angelegenheiten,  
Herrn Yosuke M a t s u o k a,

T o k y o .

B-0059 |

條約局長  
第二課長  
札

第二課長  
印

九月二十六日午後四時、オット大  
使、和久=依り、往訪、之、謝、  
=対シ、合大使ハ、独政府ヨリ訓令  
到、達、セリトテ、  
(イ) 條約調印ハ、二十七日正午、  
柏林時内、行ハル、キニト  
(ロ) 調印時内、即チ、柏林

外務省

時、内、午、前、十、時、三、國、外、相、内、  
電、話、=、依、ル、換、抄、ア、ル、ニ、ト、=、決、定、  
セ、ル、ニ、ト  
(イ) 調印終了、際、直ニ東京ニ報  
告スル、方法ヲ、講、公、ニ、キ、ニ、ト、テ、出、テ、  
(ロ) 東福大使ヨリ、本外務省ニ、  
合大使ハ、訓令ヲ、受、ケ、タ、ル

外務省

B-0059

ト述ハタルニ付テ謝禮ヨリ未極大  
 使リ既ニ訓令ヲ受ケ居ルニ電  
 報解讀等ノ爲<sup>略</sup>行違セトナリ  
 タルモノト思考スルニ付テ<sup>早</sup>道ヶ  
 リ。  
 尚<sup>ハ</sup>タルノエシ<sup>ハ</sup>參<sup>ル</sup>予官<sup>ニ</sup>ヨリ<sup>テ</sup>東極大使  
 全取等件狀ニ因<sup>リ</sup>ス<sup>ル</sup>書翰未<sup>レ</sup>接  
 到ナリト云ハルニ付テ書翰ノ用

外務省

4

意ハ出来上リ<sup>ル</sup>モ<sup>モ</sup>津森<sup>ノ</sup>ツアリ  
 々<sup>々</sup>後ニ非<sup>レ</sup>ハ<sup>ハ</sup>究<sup>ニ</sup>得<sup>ル</sup>カ<sup>ル</sup>ニ<sup>付</sup>テ  
 明<sup>ニ</sup>道<sup>ヶ</sup>ナリ。

外務省

B-0059







電信課長

主 務 長

任 主 務 長

昭和十五年九月二十六日起草

26 92

|      |                 |
|------|-----------------|
| 管主   | 32316 號         |
| 電送第  | 15. 9月6日 11時20分 |
| 件    | 日独伊三国条約         |
| 宛    | 在独<br>末栖大使      |
| 名件録記 | 松岡大臣            |
| 第    | 六六八 號           |
| (暗)  | (大至急 彼長符号)      |

往電第 六六七 號

只方根付本會議と旅ヲ条約出案可決セヨリ

追テ今夜中ニテ電報可ナリ 次第冒頭往電

電信案

外務省

(原議用紙乙)

後報ノ電報ヲ被ルベシ

朝印清ノ上ハ日附ノ記載振(殊ニ「フアシスト」曆ヲ記

入セリトセバ其ノ記入振)及署名者ノ肩書ヲ記入セリヤ

不ヤ署名振ト共ニ詳細電報アリタシ

高三國語ノ「テキスト」トスリ代フル 日独伊三国語

ヲ以テ作成セル旨ヲ記載スル末又ノ書キ方ハ別電第

六六九号ノ通トセシ度 尙公布ノ都合カアリ

電信案

外務省

B-0059



電言書  
2

昭和15 二九四二六 (略)

伯林 九月二十五日夜發  
本省 二十六日夜着

松岡外務大臣

來栖大使

第一二五〇號 (大至急、極秘、館長符號扱)

貴電第六四四號ニ關シ

爲念左ノ諸點ニ付御回電ヲ請フ

前文中(一)「新秩序ヲ建設シ且之ヲ維持センコトヲ」ノ「且之ヲ」

ハ第一條及第二條中ノ同文句ト共ニ「且之ヲ」ト記スヘキヤ

(一)「努力ヲ爲サントスル」ノ「ナサン」ハ假名ナリヤ

(二)「協力ヲ吝マサル」ハ「吝マサル」ト記スヘキヤ

(了)

外務省

B-0059

極秘

昭和15 二九四三〇 (暗) 伯林 九月二十六日 前發  
本省 二十六日夜着

松岡外務大臣

來栖大使

第一二五一號 (至急) 館長符號扱

往電第一二二三號ニ關シ

二十五日同一「ソリス」ヨリ得タル情報左ノ通り

(一) 日獨伊樞軸強化問題ノ打合ニ於テハ、獨伊間ニ完全ナル意見ノ一致ヲ見「リ」ハ満足シテ歸獨セリ「ヒ」總統ハ「リ」外相ヲシテ本件ノ世界史的意義ニ付特ニ「ム」首相ノ注意ヲ喚起セシメタルカ「ム」ハ「リ」ヨリ話ノ進捗振ヲ聞キタル際、事突然ナリシヲ以テ驚キタルモ暫ク歇考ノ上直ニ之ニ同意セル趣ナリ

電信寫

(二) 西班牙トノ軍事同盟條約ニ關シテモ獨伊ノ意見一致シ二十六日

「チアノ」來獨シ二十七日同條約ノ調印行ハルル等ナリ右ハ西

班牙ノ參戰ト關聯シ同國ハ遠カラス參戰スルコトトナルヘキモ

獨伊ノ狙フ所ハ西ノ兵力ヨリモ西ノ樞軸接近カ獨伊對南米諸國

トノ關係改善延テハ米ノ汎米戰線統一阻止ニ役立ツヘキ點ニ在

ルヘシ尤モ獨トシテハ西トノ軍事同盟ハ西ノ參戰實現スル途餘

リ宣傳セサル方針ノ如シ

(三) 日獨伊條約成立ノ際ノ對蘇關係ニ關スル打合ノ爲目下「シユ」

レンベルグ」大使歸獨中ナリ獨伊ハ本件條約カ蘇聯トノ戰爭ヲ

豫想スルモノニアラサルコトヲ特ニ強調スル據國內新聞ヲ指導

スル方針ナルカ他面牽制ノ意味ヲ以テ東方ニ兵力ヲ集中シ居レ

極秘

電信寫

リ

(四) 對英空襲ハ益々強化セララル方針ニテ二十五日頃ヨリ使用スヘ  
 キ機銃及爆彈ハ從來トハ比較ニナラヌ程ニテ英國民ノ「モラル」  
 ニ與フル影響ハ想像以上ノモノアルヘシ  
 (冒頭往電通り取扱ニ御注意アリタシ)  
 伊へ轉電セリ

B-0059

特扱

昭和15 二九四之七 (略)

柏林 九月二十六日前發  
本省 二十六日夜着

松岡外務大臣

來領大使

第一二五三號(大至急、極秘、館長特號扱)

貴電第六四九號、第六五二號及第六五四號ニ關シ

一、本條約調印ニ際シテハ我方ハ東京ニ於テ聲明等餘ルヘキ御發表

アルコトト存スル處其ノ内容ハ二十七日午前中ニ當方へ着電ス

ル機御電報願度シ

ニ條約調印ノ席上等ニ於テ調印代表ト共ニ本使ヨリ祝辭ヲ述フ

ルコトモ有之ヘキ處右ニ圖シ心得置クヘキ事項アラハ折返シ御

電示アリタシ(了)

電信寫

外務省

B-0059



5) Records of the deliberations of the Tripartite Pact in the Privy Council on Sep. 26, 1940 and a document concerning the Imperial sanction of the Pact.

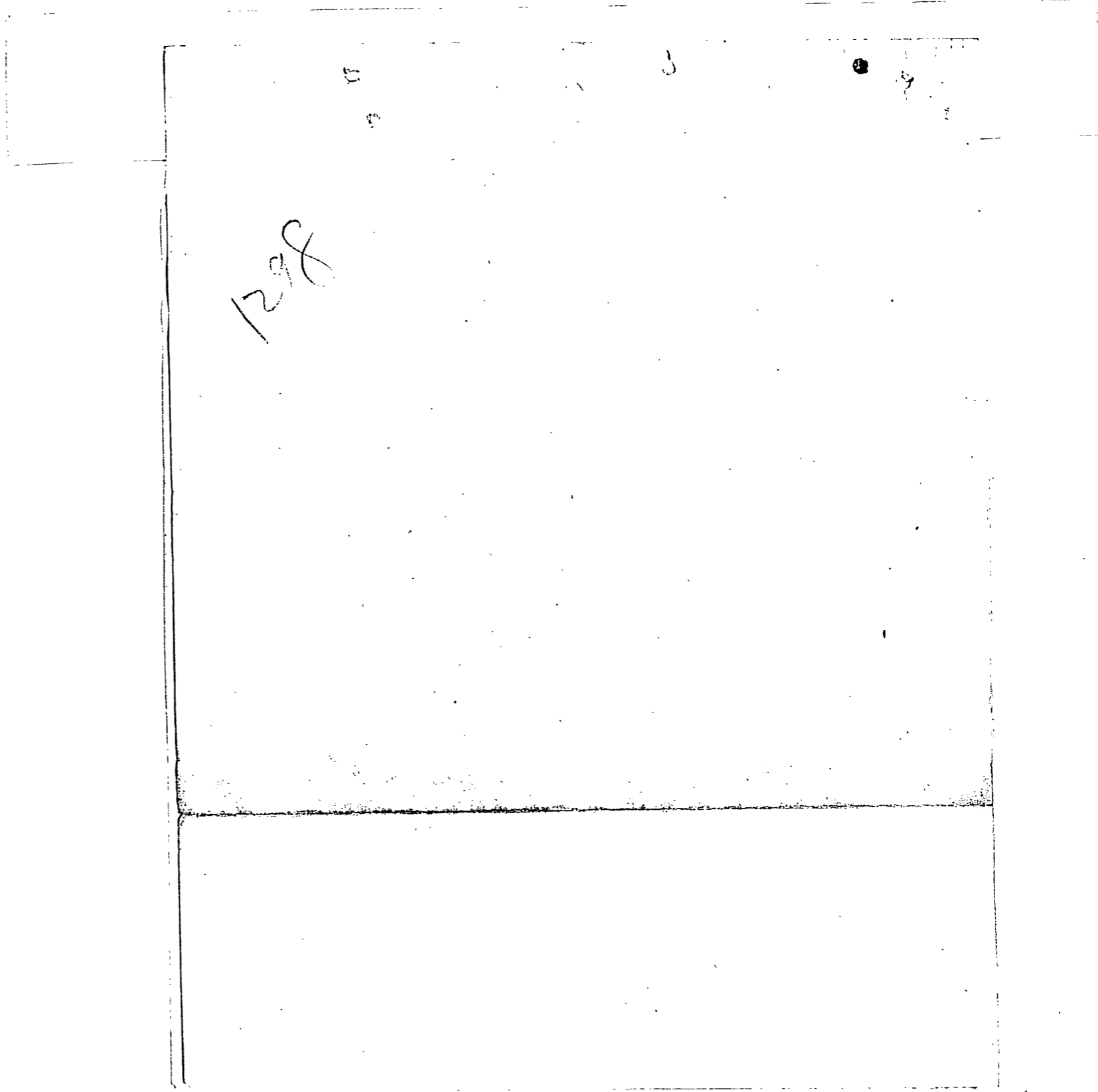
Key records are as follows:

- (1) Summary of the proceedings at the deliberation committee of the Privy Council concerning the Pact on Sep. 26, 1940.
- (2) Summary of the proceedings at the plenary session of the Privy Council on Sep. 26, 1940.
- (3) Text of the greeting by Prime Minister Kono at the deliberation committee of the Privy Council on Sep. 26, 1940.
- (4) Text of the explanatory address by Foreign Minister Matsuoka at the deliberation committee of the Privy Council on Sep. 26, 1940.
- (5) Document concerning the Imperial sanction of the Pact from Kono to Matsuoka.

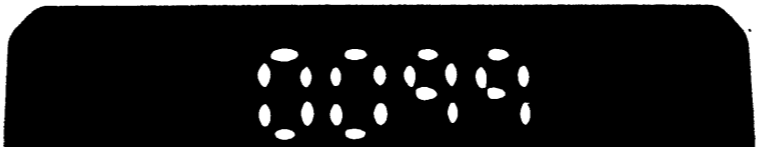
7. Miscellaneous documents concerning the conclusion of the Tri Partite Pact and the Kaupo or Official gazette on which the Pact is published.

Key documents are as follows:

- (1) Written opinion of the Japanese Army concerning the conclusion of the Pact.
- (2) Address of instructions by Foreign Minister Matsuoka at the reading ceremony of the Rescript of the Tri Partite Pact concerning
- (3) Instruction concerning the conclusion of the Pact from Foreign Minister Matsuoka to Japanese diplomats in foreign countries.
- (4) Documents concerning the submission to the Throne of the Pact from Foreign Minister Matsuoka to Prime Minister Koizumi.



B-0059 |



極秘

日独伊三國条約、閣下ル枢密院審査委員會議事概要  
(松本希約局長手記)

昭和十五年九月二十六日午前十一時三十分開會  
實中東三、間ニ於テ  
出席者

枢密院側 原枢密院議長

鈴木枢密院副議長(審査委員長)  
欠席ノ金子顧問官、以申辯中全顧問官  
審査委員トシテ出席

政府側 近衛内閣総理大臣

外務省

(日本標準規格B5)

松岡外務大臣  
東條陸軍大臣  
及川海軍大臣  
河田大藏大臣  
星野企画院総裁

他ニ説明員トシテ

村瀬法制局長官、森山第二部長  
松本希約局長  
武藤軍務局長  
阿部軍務局長  
原口為替局長、松隈銀行局長  
辻監理局長

(日本標準規格B5)

外務省

B-0059

議事

- 一、委員長長開會ヲ宣シ書記官ヲシテ条約草案又ヲ朗読セシム
- 二、近衛総理大臣別紙甲号ノ通核抄ヲ述ブ
- 三、松岡外務大臣別紙乙号ノ通説明ス
- 四、席順ニ依リ質問ニ入ル

河合顧問官——本官ハ本案ノ趣旨ヲ完全ニ了解セリ本官トシテハ豫テヨリ日独伊同盟ノ成立ヲ希望シ居リタルモノニシテ松岡大臣就任以來其ノ陳ナル旨現ヲ期待シ一部ニ松岡大臣ノ活動ヲ手緩シトスル論モ耳ニシタルガ今回遂ニ之ガ成立ヲ見タルハ欣快ニ堪ザル所ナリロシ今ノ松岡大臣ノ説明ニ依リバ伊太利ノ態度

外務省

(日本標準規格 B5)

ハ明ナラザル処此ノ点ヲ兼リ度シ

松岡大臣——本件談合ハ先程モ述ベタル通り日独間ニ始メラレタルモノニシテ独側ハ最初ヨリ伊太利ノ方ハ引支ケ居レリト申述ベ居リタリ昨日伊太利大使ハ本大臣ヲ訪問シテ伊太利ハ本件交渉ノ一切ヲ独側ニ委任シ日独間ニ纏リタル条約草案ニ伊側ハ全幅的ノ賛意ヲ表スル旨本國政府ノ訓令ニ依リ申入レ来リタル次第ナリ

河合顧問官——附屬ノ交換文書ヲ一覽スルニ日独間ノ關係ノミヲ述ベ居ル処伊太利ヨリモ同様ノモノヲ取付タル必要ナキヤ

松岡大臣——實ハ我方トシテハ凡テ独逸ニ重点ヲ置キ伊太利側ヲ附隨的ノモノト爲ヘテ差支ナレト思

外務省

(日本標準規格 B5)

B-0059

考不從テ交換文書ノ中ニ於テ独逸外務大臣ガ伊太  
利ノ援助及協力ヲ必要トスル場合ニハ伊太利ハ勿論独  
逸及日本ト同調スベキコトヲ絶對ニ信ズルヨリ揭ゲシ  
ムル止メタル次第ナリ

河合顧問官—— 条約第三條ハ最モ重要ト思考  
ス本官ハ日米開戦ヲ信ズルモノニ非ザルモ最悪ノ場合  
ヲ考慮シテ軍部大臣ハ何等敗ケテ取ラザル丈ノ覚悟  
アリト信ズルガ之ニ就テ何等カ本官等ハ安心ヲ與フル  
様ハ説明ヲ求リ度シ又蘇聯ガ日本ニ向テ事ヲ起  
サザルモノトモ限ラズ此ノ場合独逸ハ如何ナル態度ヲ執  
モノト考ヘラルルヤ

東條陸軍大臣—— 本大臣ハ主トシテ陸軍ノ見地  
ヨリ市回答ス最悪ノ事態ニ陥リタル際對米作戰

外務省

(日本標準規格 B5)

ニ要スル陸軍ノ兵力ハ極一部分ヲ使用スルニ過ぎズ其  
点ハ市懸念ハ無用ト思考ス然レ作テ對米作戰ハ往  
而對蘇作戰ヲ考慮セザレバ完全ナリト云ヒ難ク依テ  
日蘇ノ国交調整ハ極メテ重要ナル問題ニシテ之ガ有  
效ニ完成スレバ軍事的準備ハ全程樂ニナルモノト考  
ヘ得ル処ニ蘇聯ノ性格上日本トシテ準備ヲ怠ル譯ニ  
考ラズト思考ス尚支那事變ニ付テハ本条約ヲ有效ニ  
活用スルコトニ依リ最悪ノ事態發生前事變ノ解決ヲ  
圖リ度キ考ナリ

及川海軍大臣—— 現存艦隊ノ戦備ハ完成シ居  
ルヲ以テ決シテ米國ニ敗ケハ取ラザルモ戦争ガ長期  
ニ亘ル場合ハ米國ノ海軍充實ノ計画ノ實現ニ伴ヒ  
我方トシテモ充分ノ準備ヲ為スノ要アリ此ノ点ニ付テハ

外務省

(日本標準規格 B5)

B-0059

海軍トモテモ万全ノ策ヲ講ジ居ル次第ナリ  
河合顧問官——本官ノ最モ心配スル所ハ物資  
ノ關係ナルガ一体長期戦トナリタル場合孰ノ位ノ間ハ差  
支ナキ事ナリヤ

星野企畫院總裁——昨日市説明申上ケタル  
通り(企畫院總裁ハ其ノ前日枢密院定例參集ニ  
於テ物資動員計畫ニ付詳細ナル説明ヲ行ヘリ)數  
年前より我國ハ諸物資ノ自給自足ヲ覺悟シテ準備  
シ来レルガ二十億ノ輸入ノ中十九億ハ英米ニ依存セ  
有様ナルガ故ニ經濟上ノ圧迫強化ノ場合條約第三條  
發動ノ場合ヲ考ヘテ万全ノ策ヲ講ズル必要アリ鉄  
ニ付テ云ハバ本年ノ生産高ハ五百二十万屯ノ見込ナルガ  
最悪ノ場合ニモ四百万屯ハ生産シ得ル見込ナリ現在

(日本標準規格 B5)

外務省

軍備並ニ軍需ニ使用セルモノ百五十万屯其ノ他ハ生産  
力補充並ニ民需官需ニ充當セルモノナルガ屑鉄が未  
ニザル場合又ハ鉄材ノ輸入ナキ場合ヲ考慮シテ生産力  
補充ニ手加減ヲ加ヘ民需官需ヲ制限スレバ左程ニ窮  
境ニ立タザル見込ナリ非鉄金屬ニ付テハ鉄ノ様ニハ  
參ラヌモ世界中ヨリ目下蒐集ニ務メ居ルヲ以テ之亦  
左程心配ハ要ラヌト思存ス最モ重大ナルハ石油ナルガ  
現在ハ多量ヲ米國ニ依存シ居リ殊ニ航空機用揮  
發油ハ強ク全部ヲ米國ヨリ輸入ニ仰ギ居ル處國內  
ノ増産ヲ圖ルト共ニ米國以外ヨリ獲得スル方法ヲ講  
ザルベカラス最近航空油ニ付テハ相當ノストックヲ  
得タリ然レ共對米戦争長期ニ亘ル場合鉄其ノ他  
ノ金屬類ノ場合トハ異リ日滿支三國ノ中ノミニテハ

(日本標準規格 B5)

外務省

B-0059

自足出来ザルニ依り出来得ル限り速ニ蘭印又ハ  
 北樺太等より石油獲得権ヲ確保スル必要アリ  
 此ノ点ニ付テハ今回ノ独逸側トテ許合ニ於テモ問題ト  
 ナリタル点ナリ又目下蘭印ニ於テ平和裡ニ石油ヲ獲  
 得スル交渉が行ハレ居ルモノトテ了解願度シ  
 河合顧問官——昨日ノ市談ノ時ニモ石油ニ付テ  
 ハ軍部ニ於テモ相当ノ準備アリト云フ意味ノコトヲ  
 申サレタルガ軍部大臣ヨリモ市談各条願度シ  
 及川海軍大臣——海軍トシテハ相当長期ノ準備  
 ヲ有ス又人造石油ニ付テモ目下施策中ナリ  
 東條陸軍大臣——陸軍ノ資材ニ付テモ相当ノ  
 期間ハ堪エ得ル程準備アリ非常ナル長期戦トナレ  
 バ航空機用、機械化部隊用ノ油ニ付テモ考慮スル必

(日本標準規格 B5)

外務省

要アリ  
 右ニテ一旦休會  
 午後一時十分再開  
 石井顧問官——第三条ニ依り一國が攻撃ノセ  
 ラルトキハ直ニ冬ニ戦義勢ヲ生ズルモノナリヤ何等カ  
 此ノ点ニ付許合アリタルヤ  
 松岡外務大臣——交換文書中「一締約國ガ  
 糸約第三条ノ意義ニ於テ攻撃ヲセラレタリヤ否ヤハ  
 三締約國間ノ協議ニ依リ決定セラルベキコト勿論トス  
 (在京独逸大使来翰)トアルハ市價向ノ点ヲ明確ナ  
 ラシムル爲本大臣ノ要求ニ依リ挿入シタルモノニテ攻  
 撃アリタルヤ否ヤニ付テ協議シ協議纏マレバ自衛的  
 ニ共同ニテ戦ハザルベカラザル處何時如何ナル方法ニ依リ

(日本標準規格 B5)

外務省

B-0059



援助スルヤハ締約國各自主的ニ決定シテ協議スル  
コトナリ  
高第四條ノ

石井 顧問官—— 本文中「直ニト云フ字句」ニキ

依リ外務大臣ノ説明ハ自ラモ同感ナリ  
混全専門委員會ハ通常同盟條約ニアル軍事  
専門家間ノ協議ト解シテ了ラレカ先程ノ外務大臣  
ノ説明ニ依リ経済的ノ問題ニテ委員會ニ於テ協議  
スルモノノ如キ處此ノ点ニ付説明ヲ承リ度シ

松岡 外務大臣—— 本件ハ最初ハ條約ノ附屬  
秘密議定書中ニ規定スル案ニナリ居リタリ  
陸海軍ノ混全委員會ヲ東京ニ一伯林又ハ  
羅馬ニ一ヲ設ケ其ノ他經濟委員會ヲ設クルコトト  
ナリ居リ然レ共秘密議定書ニ作成セザルコトナリ

外務省

日本標準規格 B5

此ノ点ニ條約成立後兩國間ニ協議シテ決定致度キ處  
經濟問題ヲ扱フ委員會ハ必要ト思考スルニ依リ  
設置スルコトナルベシト考ヘ居リ

石井 顧問官—— 本條約ハ同盟條約ニ致シト  
必ク存在スル單獨不媾和ニ關スル規定ナキ處右ノ何等

カ特殊ノ思惑アリタル次第ナリヤ

松岡 外務大臣—— 本件ハ一切話出ザリキ完ハ  
本大臣トシテハ先方ガ右ニ出セバ之ヲ挿入スルモ差支  
ナシト思考シタルガ先方ガ之ニ觸レザル場合ニハ之ヲ  
設ケザル方可ナリト思ヒタリ何トナレバ本條約ハ本大

臣ノ考ニテハ戦争ヲ防止スルコトガ目的ニシテ戦争ス  
ルコトガ目的ニアラザルニ依リ開戦ヲ豫想スル單獨  
不媾和ノ規定ヲ設ケザル方可ナリト思ヒタルコトガ

外務省

日本標準規格 B5

B-0059

一ノ理由ニシテ、他ノ理由ハ万一戦争が始マレバ此ノ点ハ戦争初期ニ至リ約束スレバ宜シト考ヘタルヲ以テ之ガ規定方ヲ申出ザリシ次第ナリ

石井顧問官—— 帝意見 帝尤ト存不尚条約第一  
一条ニ歐洲ニ於ケル新秩序ト云フコトガアル處何ヲ以テ  
歐洲ノ新秩序ト云フヤ判然タラシメザレバ日本ノ義務  
が判然タリ得ザルニ非ズヤ何方此ノ点ニ付話合アリシヤ  
松岡外務大臣—— 帝尤ノ旨向ト存ズルモ本大臣  
トシテハ新秩序ノ意義ハ前文ニテ充分現ハレ居レリ  
ト思考ス前文ハ当方ノ提案ニシテ独逸側ハ一字ノ  
修正ヲモ申出ザリシモノナリ  
有馬顧問官—— 本条約ニ依リ日米戦争ヲ  
避ケ度キハ本官モ政府ト同意ナルガ日米ハ宿命

(日本標準規格 B5)

外務省

的ニ戦ハザルベカラザルモノナラバ今日が最モ良キ時期ト  
考フ但シ最モ心配ナルハ石油ノ欠乏ナリ海軍大臣ハ相  
当ノ準備アリト云ハレタルガ日米開戦スレバ一年、二年  
ヲ終焉ニ達スルモノトハ思ハレズ殊ニ今日ノ戦争ニ於テハ  
極テ多量ノ石油ヲ使用セザルベカラザル處人造石油  
等モ果シテ急場ノ間ニ合フモノナリヤ心配ニ堪エザル  
次第ナルニ付此ノ点重テ海軍大臣ヨリは回答ヲ得度  
及川海軍大臣—— 人造石油ハ未ダ着手シテ  
ル許リニテ中々急場ノ間ニ合フトハ申サレズ依テ平和  
的手段ニ依テ蘭印又ハ北極太ヨリ獲得スル他ナリ之  
が成功スレバ相当有望ナリ從テ蘇聯トノ国交調整  
ハ此ノ点ヨリ方ヲモ重要ナリト存ズ又一方海軍トシテ  
ハ長期戦ニシテ石油ノ使ヒ延シモ考ヘザルヲ得ズ

(日本標準規格 B5)

外務省

B-0059

有馬顧問官——ハイ、オクタン価、石油の充分  
間、今、次第ナリヤ

及川海軍大臣——ハイ、オクタン価、石油の近年  
海軍ニテモ専門ノ研究機関ヲ設ケ海軍独自ノ方法  
ニ製造シ居ルリ又相当ノ準備モアル次第ナリ

宍田顧問官——条約第三條ノ文字上ヨリ見  
テ現ニ歐洲戦争又ハ日支紛争ニ参入シ居ラザル  
一國ノ中ニハ蘇聯モ含マルモノト考フルガ蘇聯トノ  
關係ニ如何ナルモノナリヤ 独逸ト蘇聯トハ何等カ款  
合アリタル次第ナリヤ

松岡外務大臣——其ノ疑問ヲ避クル爲第ニ五條ヲ  
設ケタル次第ナリ而本大臣ガ「スターモ」ニ對シテ蘇聯ト  
ノ間ニ何カ本条約ニ付款アリタルヤト訊ネタルニ對シ「スタ

スター」ハ否定的ノ回答ヲ爲シ居タルハ本大臣ノ想像  
スル所ニテハ「スターモ」ハ「モスコ」通過ノ際蘇側ト何  
等カ款ヲ爲シ居ルモノト考ヘ居ルリ其ノ證據ト思ハルル一  
事實アルガ「スターモ」ハ八月二十三日ニ伯林ヲ出發セル處  
同日「リッペン」外相ハ末栖大使トノ會見ニ於テ何等  
本件ニ言及セザリシガ「スターモ」ハ廿四日ニ東郷大使ニ會  
見シタル際ハ独逸側ハ日本ト政治条約ヲ締結スル積  
尤ヒ目ヲ款ニ居ルヲ以テ其ノ間「スターモ」ハ蘇聯當局  
ト何カ款ヲ爲セルモノト思考セラル

宍田顧問官——米蘇接近ノ噂ニ聞ク處本  
条約ハ之ヲ促進スルトトナル懼ナキヤ此ノ点ハ如何  
松岡外務大臣——米蘇接近ニ付テハ外務省ニ  
於テモ各方面注意シテ真相ノ把握ニ務ムル處

外務省

(日本標準規格 B5)

外務省

(日本標準規格 B5)

B-0059

今日迄確實ト認メラルル情報ニハ構ヒ居ラズ本大臣ハ  
未ダ具體的ノ何物モナシト考ヘ居リ尚「スターマール」  
日蘇ノ外交調整ノ成功ニ付テハ極メテ明白ニ其ノ可能  
性ヲ述ベ狂逸ノ斡旋ヲ申出タル次第ニシテ此ノ点ハ交  
換文書ニモ記載サレタル通ナリ

石塚顧問官—— 希約ノ条文トシテハ本官ニ於テ  
異存ナシ但シ狂逸トノ關係ニ付テハ過去ノ実績ハ  
照シ百「パーセント」信用ヲ置キ行カズ防共協定  
及文化協定締結ノ際ニモ特殊ノ事項ニ付テハ免メ  
角全面的ノ提携ハ不可ナリト議論アリキ此ノ点ハ  
政府ニ於テモ充分留意相成テ条約實施ニ遺憾  
ナキヲ期セラレ度シ

清水顧問官—— 本条約ノ調印者ハ誰ナリヤ

外務省

(日本標準規格 B5)

松岡外務大臣—— 「リッベントロフ」「チアノ」及「素樺  
大使」三名ナリ

清水顧問官—— 本条約ハ署名ト同時ニ實施  
セラルコトナリ居ル處之ハ憲法上差支ナシト思ハルヤ

松岡外務大臣—— 斯クノ如キ希約ハ前例モ多ク  
アリ調印前ニ枢密院ニ諮詢相成リ帝裁可アルモノ  
ナリ依リ憲法上ノ問題ハ生ズル懼ナシ

清水顧問官—— 聞ク所ニ依レバ重慶ニハ未ダ獨  
逸人ノ技師ガ數名居ルト云フガ眞實ナリヤ

東條陸軍大臣—— 斯カル情報ハアルモ真相不明ナ  
リ

清水顧問官—— 我南洋委任統治地域ニ對シ  
テモ何等カノ代償ヲ支拂フコトナリ居ル處如何ナル  
譯ナリヤ

外務省

(日本標準規格 B5)

B-0059

松岡外務大臣——此の点、付する独逸側、目下  
 委任統故トナリ居ル旧独領、全部返還ヲ受ル建  
 前トナリ居る獨國タル日本ニガ之ヲ返還セザルコトヲ認  
 念ハ原則ノ向題トシテ受諾シ得ズ從テ代償ヲ得テ  
 日本ニ償恤シタル形式ヲ採リ得シト主張ス、最初  
 ハ相當ナル代償 adequate ト云フ字句ナリシラ本大臣  
 ノ主張ニ依リ *a way* ト云フコトニシタルモノニテ是方  
 ハ此ノ代償ニ全然フノミナルモノニシテ可ナリ例ヘハ珈  
 琲ニ袋ト云フ例モアリト云ヒ居るタル位ニテ極メテ輕キ  
 意味ナリ  
 清水顧問官——本官ノ考ニテハ委任統故ハ  
 今更獨逸ヨリ讓渡ヲ受クル必要ナキモノト思ハル  
 松岡外務大臣——自分ノ考フル所ニ於テハ立

(日本標準規格 B5)

外務省

博士其ノ他有力ナル國際法學者ノ説ノ如ク領土ノ  
 割讓ハナカリシモノト見ルガ正シト思考ス從テ本大臣  
 ハ三年以來、ツヴェルサイエニ希約ヲ獨逸ガ實際ニ破  
 棄シタル以上日本ノ委任統故ハ軍事占領ノ繼續  
 ト見ルガ正シク從テ獨逸ヨリ讓渡ヲ受ケテ事態ヲ  
 明瞭ニスル必要アリト考ヘ居レリ  
 南顧問官——伊太利ハ本條約ニ何時承認ヲ與  
 ヘタリヤ  
 松岡外務大臣——先程モ御答ニタテ通り伊太利  
 ハ二十五日ニ在京大使ヲ本大臣ノ許ニ派遣シテ同意  
 ヲ表明シ来レリ其前、ツルベントロカニ外相ガ羅馬  
 ニ於テ伊太利側ノ同意ヲ取付ケタルモノナリ  
 南顧問官——然ラハ十九日ノ事前會議ノ際

(日本標準規格 B5)

外務省

ニ伊右利ハ同意スルモノトモセザルモノトモ不明ナリトモ本件  
ヲ御前會議ニ附シ帝裁可ク仰ギタルハ時期頗ル尚早ニ  
アラズヤ

松岡外務大臣—— 独逸側ハ最初ヨリ伊右利ノ  
同意ヲ確實ニ得タルコトヲ強返シ速ベクタルノミナラズ  
御前會議ニテ審議シタルハ日独間ニ一應纏リタル案  
ニ依リ日独伊三國間ニ希約ヲ締結スル方針ヲ附議シタ  
ルモノナルニ依リ何等差支ナカリシモノト考フ

南 顧問官—— 大東亞ノ範圍ニ付テハ明白ナルコト  
ヲ決メテ居ラザルニアラズヤ

松岡外務大臣—— 交渉ニ當リ隨時談ヲ爲シ記  
録ニ留メタリ

南 顧問官—— 日英間ニ紛争發生シタル場合

外務省

(日本標準規格 B5)

付特ニ交換文書アルハ如何ナル理由ナリヤ

松岡外務大臣—— 英國ハ既ニ歐洲戰爭ニ参戦シ  
居ルヲ以テ本条約第三條ノ場合ニ當嵌ラザルモ日本ト  
シテハ日英戰爭カ絶対ニナシトハ云ヒ得ザルニ依リ特ニ此ノ  
点ヲ独逸側ノ好マザリシニ拘ラズ明確ニセシメタリ

南 顧問官—— 本条約ハ日本ヨリ云出シタルモノ  
ナリヤ独逸ヨリ云出シタルモノナリヤ

松岡外務大臣—— 独逸ヨリ云出シタルモノナリ  
南 顧問官—— 独逸ガ斯カル提議ヲ爲スニ至レ  
ハ對英作戰ニ失敗シタル爲ニアラズヤ

松岡外務大臣—— 對英作戰ノ長引キタルコトモ一ノ  
理由ナルヤモ知レザルモ右カ全部ニ非ズ數十年ノ長キ  
眼デ見テ独米ノ葛藤遍ケ難シト見タル爲ナラシト思ハ

外務省

(日本標準規格 B5)

B-0059

南 顧内官——本条約に依り米國ヲ牽制スルコトハ結構ナルガ米獨提携ノ危險絶對ナキヤ  
 松岡外務大臣——米獨提携ノ可能性ニ絶對ナシト思ヒ然レ共日米關係ノ改善ハ獨系米人ノ米國に於ケル勢力ヲ無視スルザルニ依リ此点に於テ本条約ノ価値アリト思存ス  
 南 顧内官——石油ノ問題ハ先程ノ各大臣ノ回答ヲ承ルモ壁ヲ隔テテ物ヲ聞クガ如ク一寸モ安心スルズ今少シ明瞭ナルコトヲ承リ安心セシメラレ度シ  
 企畫院總裁、陸海軍各大臣——先程モ席談シタル通り陸海ハ相与貯藏アリ協外ヨリ平和的獲得モ有望ナリト伺合、有馬兩顧内官ニ對スル回答ヲ繰返シホ下

(日本標準規格 B5)

外務省

南 顧内官——一方に於テ日支事變が継続シ一方に於テ日米戦争が勃發セバ日本ノ財政ハ如何ニヤ大藏大臣ニ尋リ度シ  
 河田大藏大臣——財政が空窮屈ニナルコトハ勿論然レ然レ國民ノ貯蓄ヲ増進シ政府が節約ヲ圖ル他ナシ  
 南 顧内官——次に日蘇關係、付承リ度シ  
 萬一日米戦争が起リタル場合蘇聯ハ恰モ歐洲戰爭前ニ英佛ト独トヨリ引張佩トナリタルガ如ク日米兩國ヨリ提携ノ手ヲ差延スコトナルベシト思ハル 故ニ日米關係ヲ考フルニ先ツ蘇聯トノ國交調整ヲ行ヒテ後此ノ條約ノ交渉ヲ爲スコトハ未ダガリシモノナヤ何故ニ蘇聯トノ交渉ヲ後廻シニシテ独逸ノ言分ニノ從フモノナリヤ

(日本標準規格 B5)

外務省

B-0059



松岡外務大臣——蘇聯と国交調整に付する前  
 内閣時代、中立条約ヲ提議セリ亦大臣モ兼任以未探  
 リヲ入レテ見タルが蘇側ハ前内閣ノ提議ヲ受諾スル条件  
 トシテ、ポーランドノ再検討、北樺太利権ノ回復  
 等強ク拒否的ノ条件ヲ附シテ受諾ヲ回答シ来レル  
 が如キ有様ナリ依テ亦大臣ハ蘇聯ト国交調整ハ独  
 逸ヲ利用スル他ナシト結論ニ達シ本条約ニ對スル独逸  
 側ノ提議ヲ受諾セル次第ナリ  
 南 顧問官——米國ハ欧戰中ニ參加セズト云  
 フトラコスターマール外務大臣ニ申シタト云フコトナルモ大  
 統領送天後ハ如何ナルコトニナルヤモ知ズ中立條ヲ改定  
 シテ極力英國ヲ援助スルコトニナルヤモ圖ラズ其ノ場合  
 ハ米國ハ独逸ヲ攻撃シタルモノトナルヤ否ヤ

外務省

(日本標準規格B5)

松岡外務大臣——米國ノ措置が攻撃トナルヤ否ヤ  
 ハ其ノ時ノ状況ニ依リ判断スル他ナシ此ノ点、付テハ交  
 渉中独逸側ハ第三條、公然ト又ハ陰密ニ(Openly or  
 covertly)攻撃セシタル云々ト云フコトニ致度シト申出  
 タルニ對シ、當方ヨリ陰密ニ攻撃スルトハ例ハ米國カ  
 英國ニ驅逐艦ヲ讓渡スルカ如キコトヲモ含マルル惧アル  
 ニ依リ斯カル字句ハ削除シタシト主張シタル際、此方  
 ハ右字句ハ寧ロ日本側ノ利益ノ爲ニ挿入スルモノニシテ  
 例ハ米國艦隊が新嘉坡ニ入港シタト云フガ如キ場  
 合ヲ陰密ニ攻撃シタルモノト云フベク驅逐艦讓渡  
 ノ如キハ入ラズト説明シタル経緯モアリ  
 南 顧問官——独逸側トシテ今ノ際ニ蘇聯  
 ヲシテ援蔣政策ヲ放棄セシムル為ニ盡力スルト云フコト

外務省

(日本標準規格B5)

B-0059



ニ付念ヲ押セタリヤ

松岡外務大臣——此ノ点ハ本大臣トシテモ充分考  
慮シ居リ、独逸ヲシテ蘇聯ヲ通ジテ重慶ヲ和年ニ  
導カシムルコトヲ考ヘ居ルモノナリガ之ヲ過早ニ去トス  
ハ独側ニ脚下ヲ見ラシ百案アリテ一利ナキ次第ナレバ  
最初八月初旬ニ「オット」大使ニ會見ノ際先方ヨリ  
斯カニ趣旨ノ事ヲ申出シタル際モ日本ハ支那事者  
ハ独力ニテ片附クン積リナリト申聞置キタル次第ナリ  
素来ヨリ今後ハ本条約ヲ十二分ニ活用シテ日蘇國交  
調整、支那事者收斂ノ促進ヲ圖ル覚悟ナリ  
奈良良 顧問官——竹内ナニ  
荒木 顧問官ヨリ軍ノ素質、体力、健康状態殊ニ  
肺結核ノ予防等、付竹内ヨリ陸海軍大臣ヨリ答

(日本標準規格 B5)

外務省

答ス

松井 顧問官——竹内ナニ  
菅原 顧問官——五ノ点ニ付竹内致意シ「ハ外務  
大臣ハ先程秘密議定書ト云フコトヲ申サレタルが秘密  
議定書ヲ作成スルト云フ議ガアリシヤ」「ハ本条約ト日  
独伊防共協定トノ關係如何」「ハ本条約ハ三國条約  
ナルガ独伊ノ關係ハ極メテ緊密ナルヲ以テ条約ノ解  
釋等ニ付紛議ヲ生ジタル場合、常ニ二對一トナル懼  
ナキヤ」「ハ伊右利トノ關係、付テハ何等文書ノ上ニ残  
ス必要ナキヤ」「ハ對米戰爭勃發シタル場合、軍事  
上ノ覚悟ニ付テハ先程説明アリタルモ最モ心配ナルハ  
財政上ノ問題ナリ此ノ点ハ大藏大臣ニ於テモ充分  
覚悟アリ、存ズルカ如何

(日本標準規格 B5)

外務省

B-0059

松岡外務大臣——(一)交渉中ニ秘密議定書作  
 成ノ議有ルモ秘密議定書ノ内容ハ日本側ノ要求ノミ  
 ヲ入ルル片務的ノモノトナリ之ヲ完全ニスル為ニハ時日  
 ヲ必要トスルノミナラズ伊方利ノ同意ヲモ取付クル必要  
 アリタルニ依リ秘密議定書ノ作成ヲ避ケ本大臣ト在京  
 獨逸大使トノ間ニ文書ヲ交換シテ秘密議定書ニ代  
 フルモノトナリタル次第ナリ(二)防共協定ニ其ノ儘存置ス  
 日本トシテ防共ト云フ大方針ハ蘇聯トノ關係如何ニ  
 拘テ之ヲ堅持シ行カザルベカズト思考ス(三)獨伊ノ  
 關係ニ成程緊密ナルモ伊方利ノ日本ニ對スル感情ハ  
 獨以上ノモノアルヲ以テ尙心配無用ト思考ス(四)別  
 文書ヲ要セザルモノト考テ伊方利大使ハ極メテ明白ニ  
 伊方利政府ノ同意ヲ申出スルナリ

(日本標準規格 B5)

外務省

河田大藏大臣——菅原顧問官(竹内ノ第五点  
 ニ付テハ)極力國民ノ負擔増加ヲ防グ標措置シなキ  
 竹内ナリ  
 松浦顧問官——本条約ノ趣旨トスル所ハ日宋  
 關係ノ悪化ヲ防止スルニ在リ本官モ最モ之ヲ希望  
 スル次第ナルガ不幸ニシテ最悪ノ場合ガ起リタル時ニ處  
 スベキ準備ハ之ヲ充分整ヘ置カシメナシ  
 潮 顧問官——最悪ノ場合ニ於ケル国内情勢  
 食糧問題等ニ付竹内ナリ企業院總裁ヲ回參ス  
 林 顧問官——条約ノ主眼トスル点ハ對宋國  
 係ナカ對蘇關係ハ此ノ際最モ慎重ニ考慮スル必要  
 アリト存ズ外務大臣ノ所説明ニ依リテ對蘇關係ニ付  
 樂觀的ノ考ヲ有シ居ラルヤノ印象ヲ得タルガ本官ノ

(日本標準規格 B5)

外務省

有る情報、依りて日蘇間並に独蘇間ノ關係ノ將  
 来ニ付相当悪キ材料モアリ例ハ昨年独蘇不可侵  
 条約が締結セラレタル際「スターリン」が共產黨員ニ與  
 ヘタル訓示ノ内容ニ付自分ノ有るニ確實ナル情報ニ依  
 レ「スターリン」ハ蘇聯が今度独逸ト提携シタルハ西  
 欧赤化ノ一ノ手段ナリ又之ニ依リ快ニテ東進政策ヲ  
 放棄シタルモノニアラズ時期至ラバ積極的ニ出ル格ナリ  
 リト述ベタル由ナルガ之等ノ点ニ付テハ外務大臣ハ如何  
 ニ考ナリヤ

松岡外務大臣——日蘇國交調整が爾々容易  
 ナリト自分モ考ヘ居ラズ唯独逸ハ蘇聯ニ對シテ相当  
 ノ圧力ヲ加ヘ得ル「ト」之ヲ認メザルベカラズ自分ノ有  
 ル確實ナル情報ニ依リテ昨年蘇聯が何故英佛ヲ

日本標準規格 B5

外務省

離レテ独逸ト提携スルニ至リヤト云フニ其ノ動機ノ  
 最モ重要ナル一ハ「ヒトラー」ハ「スターリン」ニ對シテ若  
 干ノ遠側ノ要求ガ容シラザレバ独逸ハ蘇聯ヲ攻撃シ  
 スベシト申傳ヘタリト云フナリ之等ヲ判明シテ日  
 蘇國交調整ニ独逸ヲ斡旋セシムル「ト」ハ相当有  
 ナリト考ヘ居ナリ

深井顧問官——条約第三條ノ場合即チ日  
 蘇戰爭ノ場合ニ独逸ハ如何ナル軍事上ノ援助ヲ日本  
 ニ與ヘ得ルヤ

松岡外務大臣——在ハ交渉ノ際ニモ論議セラレ  
 ルガ独逸ハ第三條ノ事態發生以前ニ於テモ新兵器  
 等ヲ日本ニ供給スベシト申シ居リ又日蘇戰爭勃發  
 ノ場合ハ大西洋方面ニ於テ米國ヲ牽制スル「ト」ナリ

日本標準規格 B5

外務省

B-0059

兵より  
 東條陸軍大臣——蘇聯トノ諒解ノ下ニ優秀ナル  
 軍用器材ノ供給ヲ受クルコトカ最モ重要ナル援助ナリ  
 及川海軍大臣——大体陸軍ト同様ナリ  
 深井顧問官——蘇聯ニ對スル關係ニ於テ独逸  
 ガ蘇聯ヲ牽制スルトハ如何ナル意味ナリヤ斯ル事ハ  
 独逸不可侵條約ニ面ヨリ及スルモノニアラズヤ  
 東條陸軍大臣——條約上ニ其ノ通ナルガ實際ノ  
 軍事上ノ動きヲ云ヘバ独逸ハ蘇聯ヲ牽制シ得ルモ  
 ナリ現ニ独逸ハ對英作戰ヲ行ヒソアルモ其ノ陸軍ノ  
 大部分ヲ機械化部隊ト共ニ國內ニ保有シ居リ之ガ軍  
 事的ニハ蘇聯ヲ牽制シ居ル也第ナリ  
 深井顧問官——外務大臣ハ日独間ノ相互信

(日本標準規格 B5)

外務省

頼ト云フコトヲ申サレタルガ独逸側ノ昨年ノ独逸不  
 可侵條約締結ノ際ノ態度ニ不信ト云フノ外ナシ昨年  
 九月阿部兼攝外相カ本院ニ於テ外交経過ヲ説明  
 シタル際當時ノ澤田外務次官ガ平沢内閣ニ於テ独逸  
 協定カ日独防共協定ノ秘密協定ニ達及セル点ヲ指摘  
 シテ独逸ニ對シ抗議ヲ提出セル旨ヲ述ベタル處カ抗議  
 ノ結果ニ如何ナリケルヤ  
 松岡外務大臣——本大臣ノ聞ク所ニ依ルニ大抵既  
 因果シテ先方ニ通ジ居ルヤ否ヤ疑ハシク恐ラク独逸側  
 ナリ何等ノ回答ナリシモト思ハス  
 深井顧問官——對外國係ニハ感情ヲ交ヘルコト  
 ハ禁物ニシテ外交ハ飽ク迄現實的ニ行ハサルベカラズ思  
 考スル處本條約ノ前文ニテ各其ノ所ヲ得シ

(日本標準規格 B5)

外務省

台トアルが「ヒトラ」ノ常ニ方ツ所ハ弱肉強食ノ自然ノ  
 法則ナルカノ如キ感觸ヲ興フルガ独逸側ハ果シテ此ノ前文  
 ノ趣旨ヲ以テ為シ理解シ居ルヤ  
 松岡外務大臣——我外交ノ使命ハ皇道ノ宣旨  
 ニ在リ利害得失ノミニ依リテ動クモノニアラズ弱肉強食  
 ノ如キ思想ハ此レ之ヲ排撃スベキモノト考テ  
 深井 顧問官——日米戦争ヲ不可避トスレバ此ノ  
 際独逸カ英米カ孰レカニ外交ノ重点ヲ置カサルヘカラズ  
 ト云フコトハ理解出来ルモ本条約締結ノ結果ハ或ハ日  
 米戦争ヲ早ムルコトナルヤモ知レズ總理大臣ハ最要ノ  
 場合ニ於ケル軍需品一般物資ノ欠乏思想ノ悪化  
 等ニ対處シテ之ヲ切抜ケ得ル自信アリヤ否ヤ覚悟ヲ  
 示シ  
 外務省

(日本標準規格 B5)

近衛總理大臣——本条約ノ根本ノ考ヘ方ハ元々  
 日米ノ衝突ヲ回避スルニ在リ然レ共下手ニ出レバ米國ヲ  
 引上ラセラルルニ依リ毅然タル態度ヲ示ス必要アリ  
 ト思考ス万一最要ノ事態ヲ生ジタル場合ニ政府ハ外  
 交内政ヲ通ジテ非常ナル覚悟ヲ以テ施策セザンベカラズ  
 ト考ヘ居リ先日本大臣ガ参内本件ヲ上奏致シタル際  
 天皇陛下ニ於カセラレテモ非常ナル席決心ヲ有シ遊バ  
 サルコトヲ伺ヒ寔ニ恐懼感激ニ堪エズ本大臣トシテモ  
 身命ヲ賭シテ本条約ノ遺憾ナキ運用ヲ期シ度シ  
 ト考ヘ居リ  
 二上 顧問官——外交上、経済上ニ付テハ十分  
 覺悟應答アリタルニ依リ自カ方ヨリ条約其ノモノニ付  
 疑問ノ点ヲ質シ度シ先形式ノ点ニ付テ茲ニ配布ノ  
 外務省

(日本標準規格 B5)

B-0059

書類ノ中何カが御諮詢ニナリタルヤ不明ナリ之等ノ  
文書ハ日本文が本文ナリヤ交換文書ノ方モ内容ヲ  
見ルハ國際約束ト思ハルガ之ニ付テハ御諮詢ナキ次第  
ナリヤ

松岡外務大臣——御諮詢ニ相成リ居ルハ希約案  
ノミニテ他ハ参考ナリ 希約ノ本文ハ日本文、独逸文  
及伊古利文トナルモ若シモ若シモ英文ノモノニ署名  
スルコトナリ候ナリ

松本希約局長——附屬ノ交換文書ハ希約ト同様  
ノ效力ヲ有スル 所謂交換公文トハ内容並ニ形式(例  
ハ番号ヲ附ス)ニ於テ異リ居ル 所謂國際約束トハ認  
メ難キモ希約ノ解釋及松岡大臣ト「オット」大使ト  
ノ意見、一致ニタル点ヲ記載セルモノニシテ極メテ重要ナ  
リ

外務省

(日本標準規格 B5)

ル文書ト認メテ参考トシテ上奏案ニ附屬セシメタル次  
ナリ

二上 顧問官——差支リ英文ニ署名スルト云フカ  
ルキハ異例ニシテ斯カル手續カ許サルトハ思ハズ又交  
換文書ノ内容ハ國際約束ナルヲ以テ之亦御諮詢  
ノ客体トスベキモノト思ハス

原 議長——之等形式ノ問題ニ付テハ後刻  
總務會ヲ開催タルコト致候シ

(審査委員會終了後政府側出席シ懇談會  
ヲ開キタル結果希約案文ノミニ御諮詢ノ客体  
トナルコト並ニ差支リ希約案日本文ノミニ審議シ英  
文ニ署名シ後日 日独伊文トスリ代フル点ハ黙  
スルコトニ決定セル趣ナリ)

外務省

(日本標準規格 B5)

B-0059

二上顧問官——希約第三條、歐洲戦争又ハ日支紛争ニ参入シ居ラザルトアルハ不正確ナル言現シ方ニ於テ歐洲戦争又ハ日支紛争ノ雙方ニ参入シ居ラザル一國ガ攻撃シタル場合ニ第三條ガ發動スル様ニモ取レル處其ノ点如何次ニ混会専門委員會トハ先程ノ外務大臣ノ説明ニ依リテ軍事ト經濟トノ混会ノ様ニモ取レルガ之ハ三國ノ混会ノ意味ニアラズヤ更ニ第五條ト第三條トヲ合セ考フルニ、独逸ハ蘇聯トノ間ニ不平等條約ヲ有スルヲ以テ日本ガ蘇聯ヲ攻撃シ受ケタル場合ニモ独逸ハ蘇聯ヲ攻撃スルコト能ハズ之ニ反シテ独逸ガ蘇聯ヲ攻撃シ受ケタル場合ニハ日本ハ独逸ヲ援助スル爲メ蘇聯ヲ攻撃セザルベカラズ從テ片務的ノ規定ナラズヤ

外務省

(日本標準規格 B5)

松岡外務大臣——二上顧問官ノ傳言内ノ第一点ハ用語ノ問題ニテ實際ノ解釋上ハ疑義ヲ生ズル余地ナシト思考スル第二点ハ勿論三國ノ混会専門委員會ノ意味ナリ第三條ガ第五條ノ結果日本ニ片務的ナリト議論ハ本條ノ政治的意味ヲ没却シタルモノニシテ蘇聯ガ独逸ヲ攻撃スルガ如キ場合ニハ独蘇間ニ現存スル政治的状態ハ重大ナル変革ヲ受ケルモノニシテ斯ル場合ニ日本ノ處ニ道ハ本條ノ規定ノ範圍外ナリト思考スル本條ノ趣旨ハ差支ラズ本條約ガ蘇聯ヲ目標トシ居ラザルコトヲ明示シタルモノナリ

眞野顧問官——傳言内ニ  
大島顧問官——大東亞ノ範圍ニ付テハ何等カ  
話合アリシヤ

外務省

(日本標準規格 B5)

B-0059



松岡外務大臣——勿論話合アリレトハ本日本  
前中汲明シテ通ナリ

小幡顧問官——日本が日支事案ヲ解決シ  
居ル此ノ際、当テ歐洲戦争ニ米國が参戦シタル  
場合、独伊ヲ援助スル義務ヲ負フテハ極メテ重  
大ナル義務ヲ負フモノナルニ及シ日宋が開戦スルト云フ  
可能性ハサレト思ハル依テ本条約ハ極メテ片務的ナ  
レトナラザルヤ

松岡外務大臣——米國が歐洲戦争ニ参加スル  
ヤ否ヤ又日米戦争ガ勃發スル中否ヤハ雙方五分  
五分ノ可能性アリト是テ若支ナシ依テ片務的ノモノ  
トイ思フセズ

竹越顧問官——本条約締結ノ結果最要

外務省

(日本標準規格 B5)

場合ヲ生ジタルトキ独逸ハ如何ニ援助ヲ日本ニ與ヘ  
得ルヤ又日本海軍が独伊ヲ援助スル場合ハ如何  
ニ援助ヲ為スヤ

松岡外務大臣——如何ニ援助ヲ與ヘ得ルヤ等  
ノ問題ハ混会委員會議ニテ充分研究セザルベカラズ

鈴木審査委員長——本条約ノ成立ト否トニ  
拘テ日米戦争ハ不可避ト考フルニ依リ米國海軍

ノ擴張ヲ充分監視シテ之ニ相應スル準備ヲ怠ルベカ  
ラズ

及川海軍大臣——是等ノ戰即決デ米國  
ニ當リテ充分勝算アリ將來ハ付テハ着々各般ノ核

張計画ヲ目論ミ居ル如キナリ  
石井顧問官——交換文書ノ最後ノモノヲ且

外務省

(日本標準規格 B5)

B-0059



ルニ我委任統次下ノ南洋群島ハ依然日本ノ屬地ト  
スルモ之ニ對シ代償ヲ支拂フベキ旨記載シアリ之ニ對ス  
ル松岡大臣ノ説明ニ依ルニ「空ニサイエ」希約ハ既ニ情  
藏シタルモノナルニ依リ南洋群島ハ日本ハ今尚軍事  
上領ヲ維持セルモノニテ從テ日本ハ猶送テ代償ヲ支  
拂ヒテ之ヲ讓受ルル必要アリトコトナル處委任統次地  
域ハ「空ニサイエ」希約ニ依テ五大國ニ讓渡セラレタルモノヲ  
日本ガ獲得シタルモノト見ルニ「日本ノ屬地ナリト  
解スルヲ以テ正シト自今ハ思考スルニ依リ猶送テ使ノ  
口頭宣言ニハ自今ハ賛意ヲ表シ兼又尤モ本問題  
ハ弗諮詢外ノ問題ナルヲ以テ唯弗答考迄ニ自今  
ノ意見ヲ述アルニ止メ置キタシ

外務省

(日本標準規格B5)

ノ意見ハ委任統次ハ領土ノ讓渡ニ非ズト爲シ居ルカ故ニ  
法理論ヲ別トシテ實際政治ノ問題トシテハ一應猶送ヲ  
何等カノ方法ニテ割讓ヲ受クル方可ナリト云フコトハ自今  
ノ三年以來ノ考テリ聞ク所ニ依ルニ三年位前ニ日本海軍  
ヲ在伯林ノ海軍武官ヲ通ジテ猶送ニ對シ一定ノ代償  
ノ割讓方申出タル趣ナリ

外務省

(日本標準規格B5)

石井 顧問官——本問題ニ付テハ主博士トモニ意見  
ヲ交換シタルトアリ主博士ノ意見ニモ委任統次ガ領土ノ  
割讓ニアラズト云フ文デ猶送ガ五大國ニ讓渡シタル点ニ  
付テハ争ナキ様思存ス從テ今更日本ガ猶送ヲ代  
償ヲ支拂ヒテ割讓ヲ受クルガ如キハ本官ノ同意ニ難  
キ所ナリ

三土 顧問官——今朝本ノ質疑應答ヲ聞イテ

B-0059

居ルに未だ未だ戦事トナリタル坊合ノミトツミトシテ論議  
セシ居ル様ナルモ本条約締結後直ニ米國ノ我國ニ対  
スル終情圧迫ハ一層加重セラレモト思考ス其ノ坊合  
ニ於ケル我國民生作ノ問題ハ重大ナル問題ナリト思ハル  
處之ニ付テハ充分ナル用意ヲ未だ居レリヤ又日本人ハ  
兵角ノ地ノ種ノ条約カ出来ルト独逸カアリトナリ及米  
運動等ヲ試カシモノ出デ来ル惧アリ斯カニ点ハ嚴ニ取  
締リ取キタシ

星野企畫院總裁——國民生活ノ問題ハ政府ト  
シテ早モ關心ヲ有シ居ル之カ対策ニ付テハ万遺憾ナ  
キヲ期シタシ

近衛内閣総理大臣——排米運動ヲ取締ルコトハ  
極メテ因惑ナシト嚴重ニ實施シタリト存ス

(日本標準規格 B5)

外務省

午後七時三十分、政府側退場

(日本標準規格 B5)

外務省

B-0059